

昭和四十七年九月招集

第三回館山市議定会定例会會議錄第三号

館山市議會



# 目次

|                 |    |
|-----------------|----|
| 日時              | 一  |
| 場所              | 一  |
| 出席議員            | 一  |
| 欠席議員            | 一  |
| 出席説明員           | 一  |
| 出席事務局職員         | 一  |
| 議事日程            | 一  |
| 開議              | 二  |
| 議案第五十五号         | 二  |
| 議案第五十六号         | 六  |
| 議案第五十七号         | 九  |
| 議案第五十八号         | 二九 |
| 議案第五十九号         | 三七 |
| 議案第六十号          | 三七 |
| 議案第六十一号         | 三八 |
| 議案第六十二号         | 三八 |
| 議案第六十三号、議案第六十五号 | 四八 |
| 延會              | 四九 |
| 本日の會議に付した事件     | 四九 |

一、昭和四十七年九月十二日（火曜日）午前十時

二、館山市役所議場

三、出席議員 二十八名

|   |   |          |   |   |          |
|---|---|----------|---|---|----------|
| 一 | 番 | 吉田 勇治郎   | 二 | 番 | 林 豊      |
| 三 | 番 | 流山 源次郎   | 四 | 番 | 鈴木 稔     |
| 五 | 番 | 近藤 好雄    | 六 | 番 | 栗原 一雄    |
| 七 | 番 | 渡辺 昭夫    | 八 | 番 | 石井 武敏    |
| 九 | 番 | 辻田 実     | 〇 | 番 | 渡辺 軍治郎   |
| 一 | 番 | 山本 昇     | 一 | 番 | 藤田 益治    |
| 一 | 番 | 五十嵐 昇    | 二 | 番 | 伊賀 多朗    |
| 一 | 番 | 和田 一郎    | 一 | 番 | 辻井 謹爾    |
| 一 | 番 | 宮野 敏朗    | 一 | 番 | 安西 益男    |
| 二 | 〇 | 番 君塚 喜三  | 二 | 一 | 番 鈴木 市蔵  |
| 二 | 二 | 番 田村 源治郎 | 二 | 三 | 番 菊井 敏博  |
| 二 | 四 | 番 西村 真次  | 二 | 五 | 番 安沢 徳順  |
| 二 | 六 | 番 飯田 義男  | 二 | 七 | 番 望月 照正  |
| 二 | 八 | 番 田中 禄郎  | 三 | 〇 | 番 遠山 日木子 |
| 一 | 九 | 番 島野 茂樹郎 | 二 | 九 | 番 秋山 六三郎 |

一、出席説明員

第一号に同じ

出席事務局職員

第一号に同じ

議事日程（第三号）

昭和四十七年九月十二日午前十時開議



日程第一 議案第五十五号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第二 議案第五十六号

館山市消防賞じゅう金条例の一部を改正する条例の制定について

日程第三 議案第五十七号

館山市公害防止条例の制定について

日程第四 議案第五十八号

館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の制定について

日程第五 議案第五十九号

館山市清掃施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第六 議案第六十号

館山市豊房育成牧場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第七 議案第六十一号

館山市酪農振興事業資金利子補給条例の一部を改正する条例の制定について

日程第八 議案第六十二号

昭和四十七年度館山市一般会計補正予算（第四号）

議案第六十三号

昭和四十七年度館山市と畜場特別会計補正予算（第一号）

日程第九 議案第六十四号

昭和四十七年度館山市休養施設特別会計補正予算（第一号）

議案第六十五号

昭和四十七年度館山市ユースホステル特別会計補正予算（第一号）

認定第一号

昭和四十六年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号

昭和四十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号

昭和四十六年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

日程第十 認定第四号

昭和四十六年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号

昭和四十六年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号

昭和四十六年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号

昭和四十六年度館山市西部簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

開

議 午前十時五分開議

○議長（吉田勇治郎君）

本日の出席議員数二十五名、これより第三回市議会定例会第三日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

この際、議事について申し上げます。本日の議事案件の内容説明は、先日の会議のうちに終っておりますので、直ちに質疑より行ないます。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君）

日程第一、議案第五十五号非常勤の特別



職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第五十五号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

### 質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 社会教育指導員がどういう仕事をしているか、私まだよくわかってないんですが、条例をみますと、社会教育委員会が定員三十人以内というふうに出ていますし、それから社会教育指導員に関する規則の中には教育長の委嘱で十名になっております。

この社会教育委員会、おそらくこれとの関連で社会教育指導員というのが委嘱されていると思うんですが、どういう活動をしているのか。それから社会教育指導員の十名というものの今度の条例改正、補正予算をみますと、大体二人の人件費が出ているわけですが、これとの関連これがどうなっているのか。そういう点についてお伺いしたいと思います。

○社会教育課長（佐野哲男君） お答えいたします。

社会教育指導員につきましては、その活動の内容でございますが、従来の十名の方につきましては、これは地区ごとをお願いしているわけでございますが、これは担当の主として地区内のいわゆる社会教育活動にあたっていただいておりますわけでございます。

地区の公民館の分館との連携をする中で、地区内のいろいろの活

動、たとえば申し上げますと、いろいろなPTAの部落の集會とか、青少年のいろいろな集まりとか、家庭教育学級の地区の球技大会そういったようなところに出席していただいて、いろいろと相談員の方や、そういった方たちとの協力の中で社会教育的な仕事をしていただいているわけでございます。

なお、新しくお願いいたします二人の方の関係ということでございましたが、このたびのお二人の方は全市的な立場のものを立場に立って今申し上げましたような仕事をお願いするわけでございます。特にいろいろ婦人会、青年団あるいは主婦クラブ、サークルそういったものの仕事をこなしています中で、相談的なことを強く取り上げていただくわけでございます。学習相談そういったものを中心に団体育成をしていただく。こういうような仕事をしていただくことになっております。終ります。

○一〇番（渡辺軍治郎君） ただいまの説明ですと、十名のほかに二人委嘱するというように聞いておりますが、大体この二人の人の仕事が全市的な立場で相談にあずかるというようにことだと、今まで委嘱されている十名では足りないわけですか。それともなにか新しく二人をどうしても委嘱しなければならぬというように、そういう事情があるのかどうか。その点について。

○社会教育課長（佐野哲男君） お答えします。

従来の方々も非常に行動的に全市的なものときにはお手伝いいただいておりますが、社会教育面の指導という面からいきますと、実際公民館もございしますが、活動的な手足になつていただくような方はないわけで、そういう意味でたいへん活動していただいているわけですが、今回国のほうの補助金の新し



い社会教育指導員という制度によりまして補助金もいただけるようになりまして、全市民的なそういう立場の方が二人加わっていただきますと、さらに社会教育振興のために相談活動とか、そういったことが強化されて参りますのでそういった意味でお願いするわけでございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 二人の新しく相談員として設けるわけですが、十名で足りないでそういう自主的にそういうものが必要だということ、この社会教育指導員というのが追加されるということならばある程度話もわかるわけですが、国や県の補助が三分の二つくというのでは、国や県の方針に基づいてこの二人が天下りのというか、そういうふうに財政的なひもつきということで今の社会教育が非常に複雑でむずかしい面もありますし、政治との関連がありますから、自主的な方向で教育すべてがやられるならばともかく、上からの指導が強化されるということで語弊があるかもしれませんが、反動的なそういう社会教育が上のほうから押しつけられてくるような可能性もないとは限らないと思うんです。

それに、社会教育委員会はこういう行動をするか知りませんが三十人もあってそれとの関連で社会教育指導員というものが現に活動しているわけですから、それで不十分であるということならとにかく、新しいこういう二人を国や県が財政的な補助をしてつくるということでは、なにか民主的な、原則的なそういう点からみて非常に押しつけられるような、そういう気分が濃厚のように思うんですが、こういう点はどういうふうに考えておられますか。

〇社会教育課長（佐野哲男君） 今の渡辺議員さんからのお話して

ございますが、この新しくなります二名のことでございますが、その職務内容といえますか、そういう内容的なことにつきましては、国や県のほうからは自主的な、そういうこういうことをやれというような指示はございません。社会教育を振興する指導層の相談相手とか、一般の社会教育関係団体の学習相談、そういうことが大きな仕事になっておりまして、内容もただいまお話しございましたような御懸念をお持ちになられるような、そういうようなことはございません。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 今までの十名で不足なんですか、実際活動した上で特にこの二人が必要だというそういう理由がありますか。

〇社会教育課長（佐野哲男君） 十名の方はそれぞれの地区を、主として地区を担当していただくというようにすることをお願いしてあるわけでございます。実際の活動からしますと、さらに活発にしていただくには今度お願いするようなことで増員していただきさらに活発な社会教育行政という仕事を進めていきたい。そのために必要と思ひましてお願いしたわけでございます。

なお、先ほどの説明不足でございましたが、社会教育委員会議も、これは諮問機関でありまして、いろいろ今日の社会教育のあり方等についていろいろ検討していただくわけでございますが、そういう方々との連携も十分取りながら地区での仕事をしていただいたわけでございますが、さらにそういう人々との協力の上に社会教育の振興という立場からお願いしたようなわけでございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） ただ、この条例改正の面からみると、



報酬の変更のようにだけみえますが、内容は二人の増員ということになっておりますね。この点が非常に私は重要だと思ひんです。今まで十人の指導員がいながら、新しく二人の社会教育指導員をつくるということの必要性がどうかといえは自主的な方向ではなしに、国や県が三分の二の財政補助をするということで、むしろ上のほうからきておるといふふうに考えられますので、そういう点については若干疑問があると思ひんです。

今、社会教育課長の説明もありまして、そういう上からの指示で動くというようなことはないということが説明されましたけれども、この点については私がまだ納得できませんので、以上で質問を終ります。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

### 委員 会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を委員会付託省略するに御異議ございませんか。——御異議なしと認めます。よって決しました。

### 討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論を行ないます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） ただいまの質疑の中ではつきりしたことは、今まで社会教育指導員が十名あって各地区ごとに社会教育活動を活発にやっていると、これは社会教育委員会と結びついて館山市の社会教育活動を十分これでやっていたと思ひ

んです。ここで新しく二名の社会教育指導員を委嘱して全市的な立場でやるというふうに説明はありましたけれども、この委嘱のしかたはむしろこれは教育長がやることと思ひんですが、上からの指示といえますか、三分の二の財政補助を国や県からいわれる財政的なひもがつけられるということで自主的な面を非常にゆがめる。上からの一定の方針に基づいた社会教育そのものが押しつけられてくる。そういうような懸念が相当感じられるわけです。

情勢からみれば、今日日本の国は四次防によって軍国主義の復活が強化されていく。これに伴って日本列島改造論というような問題も出ていますが、大体大資本中心の政治がどんどん進められる中で中教審の方針も出されております。中教審の方針に対しては特別教育ということで教組をはじめかなりの反対が強いわけであります。こういう中教審の方針に基づいて社会教育、そういうものが上のほうから押しつけられてくるという懸念も相当ありますので、新しい社会教育指導員を二人、国の財政的なひもつきて任命というようにすることについては反対いたします。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。

### 採 決

○議長（吉田勇治郎君） 本案は起立により採決を行ないます。

本案を原案どおり可決するに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって本案は原案どおり確定されました。



## 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、議案第五十六号館山市消防賞じゅつ金条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第五十六号 館山市消防賞じゅつ金条例の一部を改正する条例の制定について

## 質疑応答

○一八番（安西益男君） ちょっとお伺いしたいと思いますが、賞じゅつ金の程度による支給額ということで、殉職者に対しては四段階、障害者に対してはやはり何段階かにおいてあるわけですが、この段階をきめるのはどんな方法をもってきめるか。それをちょっとお伺いしたいわけですが。

○交通課主幹（岩田 実君） お答えいたします。

この功労の程度による支給額の段階につきましては、国のほうでもって大体このようにしたらいだらうというような準則的なものがございまして、特にそれに支障がないものと思しますのでそれに基づいて設定した次第でございします。

○一八番（安西益男君） 国の段階をきめるほうはわかるんですが、地元ではどんなふうにきめるかということ。

○交通課主幹（岩田 実君） 県下各市の状況を調べましても、おむね国の準則に基づいております。館山市におきましてもこれを変更するような特殊な事情もございませんので、これに基づいてこの段階を設けた次第でございします。

○一八番（安西益男君） ですからね。地元の消防職員あるいは団員の人たちをきめるには、地元の消防関係の人たちがこの人は特に抜群の功労があるとかあるいは多大の功労があるとか、その判定をくだすのは地元の関係者がきめていくでしょう。これを聞いておるんですが、どうですか。

○交通課主幹（岩田 実君） この決定につきましては、市長が消防委員会にはかりまして、また消防団長それから安房郡市広域市町村圏事務組合の消防長と協議をいたしまして、どの段階に格づけしたらいいか、金額はどのぐらいにしたらいいかということを決定するようになっております。

○一八番（安西益男君） たぶんそういうようにきめられると思うわけですが、実はこれはだいたい前でございますが、消防団員でありまして、消防の行事が終って一ぱいやって、それで心臓まひかなんかでなくなつて、これは殉職ということでそういうものに支給されたという事例がはつきりしておるわけですが、そういう点でやはり見方によっては殉職なんだというふうな、該当しないものが殉職ということであるというふうな金額を支給されておるといふことも事実あったわけですが。だいたい前ですがそういうことがないように、地元できちっとしたものを、当然いいことでございますからやっていただかなければなりませんけれども、見方によってはずいぶん違ってくるという面が過去にあったというのをはつきり記憶しておるものでございますから、その点十分、当然そういう功労者にはいいことでございますけれども、そういう見方によっては消防関係者だということである功労のものから逸脱した面に支給されていたという感があり



ましたので、そういったことのないように、やはり正当な功労者にこりいった支給をしてあげるようなことを十分御注意願いたいということをお願いいたしまして終ります。

〇二二番(田村源治郎君) 三点ばかりお伺いしたいと思いますがこの第三条の第一号及び第二号中の「二百万円」を「五百万円」に改める。これについて広域行政消防も大体これに準じてやっているか。

それから、四十七年度の大体当初予算に提出しなかつた理由をひとつ述べてもらいたい。他市の鴨川や木更津もこの程度のものであるか。先んじてやったものであるか。この三点をお伺いします。

〇交通課主幹(岩田 実君) 第一点の広域圏の消防職員もこのような条例に基づいてやっておるかという御質問でございますが、本年の三月の広域圏事務組合の議会におきまして、これと全く同様の議決をしております。

それから、第二点の四十七年度の当初予算になぜ組まないかというふうなお話してございますが、これはそういうような事態が発生した時点におきまして議会のほうにお願いをする。こういうふうな考え方でございます。

第三点の木更津と鴨川の賞じゅつ金の状況についてというお話してございますが木更津市におきましては本年の四月にこれと同じ最高額五百万円に改正をしております。それから鴨川市におきましてはちょっと資料がございませんので、のちほどお答えするようになっています。

〇二二番(田村源治郎君) 広域行政の消防で三月にもうこれを施

行しているんだ。当市は、館山市においては当初予算に事故があった場合にはそういうように改める。なぜ広域行政の消防は待遇がよくて、市のほうはいまもってする。木更津はもう四月からやっておるんだ。館山市は何をやっているんだ。三月に広域消防が組んでいるものを当初予算になぜ組まないのか。今なぜ出す理由があるのか。前もって出すべきだ。怠慢行為があるのじゃないか。聞けば、広域消防のほうはいいけれども、館山市消防けがをしても今までよりよそのほうが、広域のほうがいいという募集にも広域消防のほうにいつて、館山市の消防のほうはだめだという批判の声をちょっと聞いたけれども、今改めるようなことでは困るじゃないですか。どう考えるですか。その点改めるものを私は文句をいいたしませんよ。早いほうがけっこうだと思う。遅過ぎているんじゃないんですか。その点において消防課長はどう考えますか。提出が。

〇交通課主幹(岩田 実君) 広域圏のほうの賞じゅつ金の条例改正は消防職員でございます。いわゆる常備消防の職員が本年の三月に最高額五百万に改定に相なつたわけでございます。安房郡下でいわゆる消防団、非常勤の消防団員の賞じゅつ金は、ほかに最高額現在五百万というところは一カ所もございません。中にはあるいはまだ賞じゅつ金条例というものが制定されていないところもあるようでございます。そんなわけで安房郡市の非常勤の消防団といたしましては、館山が最高額五百万と、このように制定していただくのはトップでございます。

〇二二番(田村源治郎君) 館山市は他市よりも安房郡で一番最高金額、君津郡の木更津が一番大きい。館山市はだれもやらない安



房都市一番早くやった。安房郡で一番早いというけれども、他市の君津郡市、木更津で四月からやっておる。館山市も四月からやるべきが当然で、安房郡で館山市より大きい市はどこにありますか。早いのが当然といっても遅れ過ぎてゐるんじゃないですか木更津から。行政に対して非常勤でも同じ人間が働いているという観念だったら、当然当初予算に組むべき仕事ではなかったですか。その点をもう一回はつきり。当初予算に組むべき仕事であると考えられるものであって、他市の木更津四月からやっているんだ。同じ消防であつて、常勤だつて非常勤だつて消防の消火にはかわりがないですよ。これはその点においてかつてに提出が遅れたら遅れたでよし。あるいはもっと早くすべきだつたという理由をいってもらいたい。働く分に常勤だつて非常勤だつてかわりがない。

○交通課主幹（岩田 実君） まことにありがとうございます。お説のとおり消防の業務につきましては常勤も非常勤もないわけでございます。それで、もっと早く提出すべきであつたかとも思いますが、先ほど申し上げましたとおり、去る六月の高知県の土佐山田町のようなこともございまして、この議会に提出させていただいた次第でございまして、これによりまして消防団員の士気が振興いたしました、あらゆる災害に立ち向うという気持も生ずるわけでございまして、是非このように改正していただきたいとお願ひする次第でございまして。

○市長（本間 譲君） 田村さんのおしかりはごもっともだと存じます。まあ幸い、これまで団員にそういう火災もなし、事故もなかったわけで、きょうお取りきめ願えれば今からでも遅くない。こういうことがいえると思ひますから、どうぞ御了承願ひします。

○一五番（和田一郎君） 今、土佐山田町と消防団の殉職という話が出ましたけれども、これをみますと五百万から二百万まであるわけです。私の考えでは、人の命にかわりがないと思ひます。多少の功勞の差によつて二百万、五百万これはあまりに差があり過ぎると思ひます。たまたま今のお話のように多数の団員が殉職した場合に、みんな二百万でやつてしまふというようなことがあつては困ると思ひますので、この二百万というものは切つて、高い四百万以上五百万ぐらいの範囲で私は支給したほうがいいと思ひます。

○交通課主幹（岩田 実君） お答えいたします。

まことにありがとうございます。お説のとおりなるべく高い額のほうがいいわけでございますが、その点につきましては市長あるいは消防委員会、団長そういったような方たちの協議によつて決定するわけでございますから、御趣旨のことをよく尊重いたしまして、このような事態が起こつた場合には、御趣旨にそうように決定されることと存じます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

#### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略直ちに採決することに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。

#### 採決



○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ございませんか。——  
御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

## 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第五十七号館山市公害防止条例の制定についてを議題といたします。

議案第五十七号 館山市公害防止条例の制定について

## 質疑応答

○一〇番（渡辺軍治郎君） 公害防止条例をきめることはけっこうありますが、この内容について二、三質問したいと思ひます。

特に、市町村で公害防止条例をつくる場合の要点として、騒音、悪臭というようなこの三つを市町村のほうでやるようにということ、この条例が出されてきていると思うんですが、この規制基準といひますか、たとえば騒音といひば、これを測定する機械、それから振動とか、悪臭とかこういうものは規制する場合の基準といひますか、それをどういうふうにしてはかるか、そういう資材やなんかの設備があるのかどうか。こういうものがないと、せっかく防止条例をつくっても規制基準ののって公害を防止するということにはならないと思ひますので、この今いったようなことを一点お伺いしたいと思ひます。

それから、この条例の全体をみますと、届出制になっているわけですが、ところが罰則にいきますと、相当強い罰則がやられることになっておりますが、届出制と許可制ということではずいぶん

違うと思ひんです。罰則のほうの点からみれば、当然届出制ではなくて許可制にすべきだと思ひますが、こういう点についてはどういうふうにお考えになつてゐるのか。

それから、先ほど申しました規制基準をきめた場合に、その規制基準に合わない要するに公害のおそれがあるという場合には、当然届出制に基づいて市の係の方が点検しなければならぬと思ひんですが、これには立入り検査という条項もありますけれども、そういう点の規定がないと思ひんです。ただ届出制、届に基づいてどうするという対処するものがこの中にならぬように考えられます。

もう一つは、十五条の場合ですが、これは変更した場合の条項でありますけれども、ばい煙等の発生が前の企業の状態よりも量が少なければ、これは省略することができるといふようにただし書が、この限りでないといふうちにここでただし書がありますが、これは変更した場合に当然こちから点検するといふようなことがなければ、これは一方的な企業者側の判断によって前よりも量が少ないといふことで省略する。そういうようなことになりましたと、変更して一体どういふふうにかわつたのか。それを点検するといふようなことはしなくてもいいような、そういうふうな感じを受けるわけです。したがって、ただし書が届出制にするならば全部届出制で変更した場合でも変更した届出をする。それに基づいて点検していくといふようなことがなければきびしい公害防止の観点には立てないのじゃないか。そういうふうに考えますのでこの四つばかりの点をお伺いします。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） お答えします。



第一点の騒音に係る規制基準のものでございますが、これは騒音規制法の特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準というふうになっておりますので、これによって一応基準を定めるわけでございますが、機械器具等については県当局の指導によりまして将来検討するつもりでございます。

もう一点の届出制と許可制のものでございますが、公害につきましてはすべて許可制ということになりまして、これに対してはすべて点検制いわゆる点検制で現場を検査してからということが条件になっております。

それから、基準に合わない場合にどうしてとめるかということも、すべてそのために各施設の特定施設並びに特定作業の実施の制限というのがございますので、騒音は三十日、その他の施設においては六十日間はその作業を実施してはならない。この六十日間と三十日間の間において点検を全部終らせるということでございます。あとの問題においてもすべて点検制でおわかり願えると思います。以上です。

〇一〇番(渡辺軍治郎君) 十五条のあれはどうですか。ただし書の点ですが。

〇衛生課長補佐(佐山市太郎君) 十五条の特定施設の届あるいは特定作業の実施届あるいは経過措置によって特定作業の実施届あるいは特定施設の届、そういうものについてこういうことをする場合に届出なければならぬということでございます。その届出があれば直ちに当該特定施設なり特定作業に点検、検査をいたしまして、そのばい煙の量が増加しないと認める場合は、その限りにあらずということの規定でございます。

〇一〇番(渡辺軍治郎君) 今のことは、これは変更の届があったらすぐに点検する。そういうことですか。

〇衛生課長補佐(佐山市太郎君) そうでございます。

〇一〇番(渡辺軍治郎君) 悪臭とか、震動とかの基準ですね。それはどういうふうにきめるのか。きめるとすればそれをきめる資材や機械、そういうものがあるのかないのか。悪臭とか震動とかそういうものは非常に判定に困るんじゃないかと思うので、その点をどういうふうに考えておるのか。

〇衛生課長補佐(佐山市太郎君) まず、悪臭についての規制基準でございますが、これは県の公害防止条例におきましても認証規定になっておりまして、測定装置等についてはガスクロマトグラフィというような高度の技術を要する。経費も膨大な機械がございますけれども、それは将来検討せなければならぬ問題でございますが、現在のところは悪臭については当面は文章規定で行なうつもりでございます。

それから、騒音につきましては、さっき申し上げましたとおり震動につきましては騒音の規制をすることによりまして、ある程度の騒音と震動はつきものでございますので、今のところ震動につきましては騒音規制法にもございませんので、騒音の規制を行なうことによって震動の防止をはかろう。こういうわけでございます。

〇一〇番(渡辺軍治郎君) 今の点で騒音と震動は確かにつきもので、ここで考えられる公害の場合は、たとえば建築でくい打ちをするというようなことでは、大きな騒音と震動を伴うようなそういうことが起こっているわけですが、そういうことに対する規



制基準といいますが、そういうものは一時的な問題であるし、非常にむずかしいと思いますが、どういふふうに考えておられますか。

○衛生課長補佐(佐山市太郎君)　したがって、当面は特定施設の届出による事前チェック等によりましてその実態を把握し、それからブロックへい等の障害によりまして震動をある程度防ぐ。こういう当面の、これは非常にむずかしい問題でございますけれども、防止法については国においても防止方法が今のところはございませんようなわけでございますので、これも検討していく次第でございます。

○一〇番(渡辺軍治郎君)　質問を終わります。

○二三番(菊井敏博君)　具体的にお聞きしたいんですけども、現在この公害防止条例に館山市で該当するところがあるのかないのかということ、現在のごみ焼却場等はこういうものの基準に合いか合わないか、お聞きしたいと思いますが。

○衛生課長補佐(佐山市太郎君)　現在館山市で該当する個所がございます。

まず、処理場は、現在谷藤原処理場のことをさしておられると思いますが、現在のところでは処理場は一二〇PPM内におさまっております。水質汚濁の特定施設になっておりますけれども、これは県の管轄下におかれまして市の条例からは除外になっておりますが、県の管轄下におかれまして一二〇PPM範囲内で現在のところはおさまっております。

ごみ焼却場におきましては、あれは大気汚染防止法のことでございますいて、やっぱり県の管轄でございますが、現在のところは

ごみ焼却場は異常ございません。大気汚染の特定施設から除外されております。

○二三番(菊井敏博君)　この前でですね。地元の農作物が枯れたというような問題が焼却場で起きたんですけども、そういうものも関連してこういうものに該当するのじゃないかと思っただけども、この公害防止条例には関連しないわけですね。

なお、あれが関連しないとなると、相当の公害が出ては該当しないということ、この公害防止条例あってもなくても大して役にたたないように思われるんですが、その点合わせて。

○衛生課長補佐(佐山市太郎君)　お答え申し上げます。

正木の焼却場におきましては、さっきも申し上げましたとおり大気汚染防止法にひっかかりまして、県の公害防止条例にひっかかりますが、現在では制煙装置を施しまして今のところは大した被害はないということになっております。

○二三番(菊井敏博君)　私のお聞きしたい要点はですね、今おたくさんは県条例にはかかるけれども、要するに市の条例にはかからないということをおっしゃられますが、館山市がこういうものをつくるんだといって、これから今後指導していくわけですよ。その場合、焼却場を例に取られてああいうものが要するに該当しないでわれわれのこういうものを該当させるのじゃないかという片手落ちの市民の反発をされるような材料が出ると思うんですよ。焼却場そのものまた真倉の防空ごうにまだ二万石からのふん尿がまだたまっておるわけですよ。ああいうものももし何かの場合に地震の震動とかひどいものがあつたら、真倉あたりの防空ごうにたまっておるふん尿が流れてくれば、館山市の半分はおおげさに



いえば、おそらくそだらけになっちゃうと思うんですよ。そういうものを多くかかえておいて、あなた方が指導する場合にそういうものを除去していかなかったら強い指導ができないと思うんです。そういう点でこういうものをどう考えるか。またこういうものを今後どういうふうに処理していくかという点について、ひとつお聞かせ願いたいと思います。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君）　もちろん県にあるから、市にないからといってそれはそれでいいんだというわけじゃございませんで、当然厚生省で定められた維持、管理基準をもって、一生懸命に基準に合うように維持、管理をしていくということでございます。

○二三番（菊井敏博君）　要望いたします。こういうような要するに館山市でも現在そういうような非常に矛盾している場合もある。またそういうものをだんだん改良していったって、市民の反発の材料にならないように指導してください。

○三番（流山源次郎君）　館山市の公害防止条例は、国とか県とかの防止条例を抜かして館山市としてまかされた条例としては、やっぱりな骨組みになり基本的のものになると私は解釈しております。ただ、この際私としてつくった反面にお願いしたいことは、御承知のとおりこの館山湾の沖合いに捨てられておりますところのし尿問題でございますが、これはそれを私のほうで指摘すれば市のほうとしては、そういう問題があった場合には、指摘された海上投棄があった場合には保安庁に連絡すれば、保安庁で取り締まってくれるという御答弁のようで、また何か問題があれば保安庁のほうに連絡しておるそうでございますが、私がお願したいの

は、海上にし尿投棄をするものは現在許可になっております。一万メートルの沖合いでございますか。そういう問題でももうすでに館山の漁民また安房郡関係の漁民には相当な被害があるんでございますが、それ以前に東京湾のし尿投棄船はやみにまぎれて朝早くとか、夜間とか、雨のしけもようとかそういう場合に東京浦賀水道から出た場合に、それを現場に行くまでに大量に捨てておるといふ事実ははっきりしておるのでございますが、これを私なんか市の条例でなくして県、国の条例について守ってもらおうということでもっていきますれば、海上保安庁、海上保安庁というところでございますが、海上保安庁の場合には全面的にそこについておるわけではございませんから、とても防ぎきれない。そのために、市といまして県を通ずるなり、またじかに東京都なり神奈川県に陸上施設を一日も早く完成してもらいたいというような運動を今までそういうことをやったとおっしゃりたいと思いますが、今後とも根強くそういうことをしていただきたいと思っておりますが、その点について御意見を聞かしていただきたいと思っています。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君）　ただいまのことでございますが、当然海上汚染防止法の関係でございますので、保安庁の管轄になるわけでございますが、そういうただいまのような事件が発生した場合には、各主管課とも連絡いたしまして県並びに国のほうと密接な連絡を取りまして善処したいと思っております。

○二一番（鈴木市蔵君）　ちょっと私は教えていただきましたんです、今課長補佐がおっしゃった公害に適用しているのが二つばかりというのを教えていただきたいというのが一つ。



それから、私の現在でも公害じゃないかと思うことは、海岸通りを大きな車が走ると道が震動して、第一番に私の家のタイルのせいふろが水が漏れてきたんですが、おらがでは安くやって手を抜いてあるかなと思っておったが、（笑声）私の家ばかりでなく一軒なしが車を通っては漏れてきた。これは教えてもらうんですよ。これはどこに苦情を持ち込んだらいいか。その点が一つ、

それからいま一つは、三芳水道の道路のまん中に、これぐらい丸いものでもってコックですね。上に鉄でもって上っているんですが、それが上に上っていて車がくるたびにタイヤがぶつつかる。震動が激しいというところがあるんですが、こういう場合どこに苦情を申し込んだらいいか。教えてもらいたい。これは教えてもらいたい。以上です。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） ただいまの御質問でございますが、道路関係国道でございますか。

○二一番（鈴木市蔵君） 最初、あんたが二つばかりあるといったから、それを教えてもらうことが最初、いったでしょう。それを忘れてもらっては困る。公害に適用するものが二つばかりあるといったからそれを教えてもらわなければならぬ。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） お答えします。

特定施設並びに特定作業と思われるものが騒音関係では鉄工所とか製材とか自動車修理工場、あるいは生コン製造業というようなものがございますが、騒音関係は特定施設といわれるものが百三十五カ所ございます。それから作業といわれるものが二十二カ所ございます。

それから震動につきましては、鉄工所関係でございますけれど

も、全市二十カ所ございます。

悪臭とか、紛じんの関係でございますが、塗装それから養鶏、製材、加工業そういうような種類でございますけれども、悪臭につきましては六十七カ所、それから紛じん関係でございますが五カ所ございます。以上でございます。

それと、さっき道路から漏るといいうのは国道でございますか。さっきの震動のことでございますが、自動車によってなされるというように考えられますけれども、現在の自動車につきましては陸運局関係の管轄でございますので、そのほうに御相談なされていただきたい。（笑声）

○二一番（鈴木市蔵君） よくわかりましたですがね。（笑声）館山市が公害対策条例をつくる以上は今の項目に入っているんですね。ただ問題は、私は市にも責任があると思うんです。なぜならば市ばかりでなく千葉県ですね。神奈川県のほうのところはそういうことはない。ということとは舗装の厚みが薄い。千葉県はすぐこわれちゃう。薄いから震動が激しい。これは市にも責任がある。必ず館山市あたりは、舗装は私の経験では、私はメートルが弱いけれども、寸でいいますと一尺ぐらいの基礎をつくれればいいやつを、五寸ぐらいでもって間に合わせるといいうこと自体が問題だと思っております。これは予算もないでしょうが、こういうことが実際にある。

三芳水道のコックが上に出ていて、要するに起きるといいうことになりますと、これは当然三芳水道に責任があるんです。あんたは陸運局にもっていても、陸運局というものはナンバーの問題なんです。道路の問題は関係ないですよ。もう少し勉強してもら



いたいと思います。

今までみてみると、各主管課長が各議員の質問に対して中途半端な回答をしておるといふことは私はいかぬと思う。そのものずばり、議員もそのとおり、長たらくくだらないことをいわないで直接質問して、わかるように質問して、主管課長もわかるように答弁をはっきり私にしろもらいたい。どうもあんなたちの質問がもう何年間もやっておりますけれども、どうも中途半端の質問だと思ひます。これは当然三芳水道に責任があると私は思ひます。答弁はもう少ししっかりお願いいたします。以上でいいです。答弁はいりません。もう私は聞いたんですから。

○六番（栗原一雄君） 二十四条の拡声機の使用制限でございますが、二号の中に「前号に規定するもののほか、屋外においてまたは屋内から屋外に向けて拡声機を使用するとき。」こういうふうに規定されておりますが、商店街にあっては、非常に意欲的なお店はバックミュージックあるいはラジオあるいはたものを流しておりますが、そういったものも全部規制するかどうか。お尋ね申し上げます。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） 全部規制することになります。

○六番（栗原一雄君） たとえば、それは了解しましたが、携帯マイクで使用する場合も規制ということになりますか。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） 拡声機といわれる種類のマイクにつきましては規制することになります。

○二一番（鈴木市蔵君） ついでだから、もう一つ聞いてみたいんですが、（笑聲）藤原のふん尿処理場の流した水は、あれは水道課に聞きたいんですが、あの水は検査したことがありますか。そ

のときには、水の水質がどのぐらいありましたか、私の聞いた範囲ではいまだふん尿処理場の水が少なかったために、相当あそこには公害的のものが流れておるといふことを聞き及んだんですが、この点を両主管課長にお伺いしたいと思ひます。

○水道課長（大嶋重義君） 水道課の水質検査室におきましては、市の藤原の処理場の放流水についても検査を実施しております。これはおもに大腸菌それからBOD等を調査いたしております。それからなおその結果につきましては、主管課のほうにその結果を通報してございます。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） 月一回の検査をしております。現在では一〇一PPMで放流しております。

○二一番（鈴木市蔵君） さっき県のほうの管轄だとか、市のほうの管轄だという御答弁があったんですが、その場合だがかし、いつも国でもってやっておるんですね。国の基準と地方の基準が合わない。こういう問題をテレビでちよいちよいやっておりますが、市としてはその場合どういう考えを持っておりますか。それをお伺いしたいと思ひます。この条例をつくる範囲において。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） 水質汚濁関係におきましては、千葉県条例の水質汚濁防止法に基づく水質基準というものが定められてまして、国の基準よりこれはうわのせ基準と申しますけれども、国の基準より以上のきびしい基準が出ましたので、これは河川及び特定作業とか特定施設のものによってそれぞれ基準が違つてきますけれども、藤原の処理場の場合には相当きびしい基準になります。この九月二十九日より六〇PPM、本当の新設されるものについては三〇PPM以下という三〇になったわけで



でございます。以上でございます。

〇二一番（鈴木市蔵君） 検査室のほうに伺いますけれども、今いた課長さんのいったとおりの三〇PPMとか何とかいってたんですが、それに対して間違いはございませんか。

〇水道課長（大嶋重義君） 今三〇PPMといいますが、BODといひまして生物科学酸素要求量というものが正しい呼称でございますが、これを処理場の施設から放流する場合には日間三〇PPM以下でなければならぬという数字でございます。

〇二一番（鈴木市蔵君） 館山市が条例をつくって、館山市から公害を出してはまずいと私はその点憂えておりますが、その点よく係の課長さんよく勉強して、そういうことは市から出さないように、これは要望でございます。

〇二一番（藤田益治君） ただいまの鈴木議員に関連しておりますけれども、この市側に対する公害除去の段階に入りますが、入った場合に、たとえば下水道の完備、終末処理等の問題がおそらく生じてくるんじゃないか。このような場合に対して市はどのような対処していくか。将来に対しての考え方を一点お聞かせ願いたいと思います。

〇土木課長（飯田治男君） 下水道につきましては、前議会るときにも通告質問で出ておりましたとおり、ただいま第四次五カ年計画下水道整備事業というものを国が実施しております。これをこの次の五カ年計画に市は計画を入れまして事業を進めていくようにいろいろ計画設定等の準備中でございます。

〇二一番（藤田益治君） 当然この公害条例りっぱな条例でありますので、市側に、先ほども鈴木議員が御質問の中にあったように

市側に手落ちのないように。したがって公害除去に対しての費用等もかさんでくると思いますので、そこいらの点に対して御当局の考え方をお聞かせ願います。

〇市長（本間 譲君） 公害条例を制定し、市がそれにひっかかるようなことがあってはこれはまことに申しわけないことでございまして、市のやっておる仕事についての除去するための経費については、これは公害被害が出ないように経費を投入してこれから対処いたしたいと存じます。

〇二一番（藤田益治君） その点に対しては了解いたしました、が、当然このりっぱな条例がつけられたのでございますので、この条例を生かしていくために市民に対するPRはどのようになさっていくか。考え方を。

〇衛生課長補佐（佐山市太郎君） このPRにつきましては、市の広報並びに報道機関等の面で、あるいは有線放送関係においてPRしていきたいと思えます。

〇二一番（藤田益治君） わかりましたが、おおむね東京都等の手近かの市民運動という形で実態を知らしたり、あるいはまたあらゆる民間の団体との結びつきにおいてこれをPRするとか、あるいは社会教育を通じてこれらの問題に対して積極的に取り組んでおるといふような実態が明らかになっておりますので、まずそういう点を御参考までに申し上げまして、要望いたしましたその点留意してやっていただきたい。このように思います。質問を終ります。

〇一八番（安西益男君） これからこの条例ができますと、特定といひますか、事業所等に対しては立入り検査等が行なわれていく



というふうに思うわけでございますが、そういった場合に当然公害に関連する基準にひっかかるという事業所が出てくると思いますが、場合によっては期限つきというふうに当然ありますけれども、その間に改造するなりあるいは移転するなりということが当然考えられますが、いかんせん中小企業の立場といえますか、なかなか全面的に改造、移転ということがむずかしいのじゃないかということが考えられるわけであります。

そこで、そういった該当するひっかかるようなそういう事業所に対しての救済的な方法等がやはり考えていかなければならぬじゃないかというふうに思うわけでございますが、そういった面等はどのように今後考えていかれるか、お伺いしたいと思うわけであります。

それから、今一二番議員さんがおっしゃったように、これは非常に広範な市民全体の大きな関心を持っていただかなければならぬ。そういうことになるわけでございます。ここにも公害防止に関する責務というところにも、市民の責務という立場においては非常にこれから公害防止に寄与するようにつとめていかなければならないと、このように示されておるわけでございますが、現在の各河川、ご存じのように各家庭に対しても住民の方々の洗剤とか、各家庭からの非常に汚水、そのために河川が非常によごれてきておるという現状にあるわけでございますが、これを普及するには非常に努力がいるんじゃないかと思いますが、この点は一二番議員さんの回答にもありました。この点皆さんに十分認識をもっていかなければならない。この点研究して皆さんに徹底していただきたい。これは要望でございます。

先ほど申し上げましたように、基準に適合しないそういった事業に対する救済方法を考えておられるものであるか。その点ちょっとお伺いしたいと思います。

〇 助役（畠山 伝君） お答え申し上げます。

これが基準にそわないために、移転を考える場合と、それから施設を改造する場合とあるうと思います。これにつきまして国、県でも公害防止に関する助成についていろいろきめてあるわけでございますが、移転の場合には、知事が必要と認める額の三分の一程度を助成するとか、あるいはまた畜産公害のような場合にはやはり融資なりあるいはまた助成なりというような規定も設けてあるわけでございますが、よく最近そちこちで市街地の中の畜産家が何人かが合同して人家の遠い山を求めてやっておるところもあるわけでございますが、大体これは五人以上の集団移転の場合等につきましては、六〇％から七五％程度の国、県の助成等もあるわけでございます。というふうなことで、改良する場合にはやはり融資もいろいろの面で考えられましょうし、移転の場合にはまたそれ相当の事業費に対しての助成等の措置も考えてあるわけでございます。

〇 一八番（安西益男君） 公害の問題は非常にこれからさらにまた関心が高まっていくということは、これはもう必定でございます。そういうことで、非常に国、県等で三分の一というような融資という面もございします。これはなかなか当面そういう面には手持ちの資金があるところばかりではございませんので、そういった面等もやはり今後十分市としていろいろ救済方法というものもそういった改良、移転等には十分力になってあげるような方法を講



じていただきませんと、こういう条例ができましたでも実際には対処できない問題が残ってしまうことじゃ相なりませんのでその点等を十分お考えいただきたいと思います。以上です。

〇二〇番（君塚喜三君） 字句の上でちょっと伺いますが、第二十五条に、深夜の定義がなされておるのでございますが、これをみますと、午後十一時から翌日の午前六時ということになっております。

ところが、大体深夜というのは、普通は午後の十時から翌朝午前五時までが深夜、たとえば労働基準法によりまして深夜に作業した場合には、深夜手当を払わなければならないわけで、また継続四時間以上の睡眠を与えなければならぬといったように規制をされております。それをみましても十時から五時ということでありまして。ただ、主務大臣というんですから、労働大臣がその地域、期間を限って十一時から六時までを深夜としてもよろしいんだということになっております。おそらくどのあれをみましても、特定のことでない限り午後十一時から六時までということには相ならぬと思います。この点、これでは十一時から午前六時までこのように設定をされておるのか。その点について伺いいたします。

〇助役（畠山 伝君） お答え申し上げます。

この館山市におきます営業取締法によりますものの中には、午後十一時から午前十一時までとなっておりますわけでございますが、その中で酒を提供するようなところにつきましては、十二時までとあるわけでございます。

〇二〇番（君塚喜三君） ただいま助役さんの御答弁では、営業と

いうことを本位に設定をせられて御回答でございましたけれどもこの公害というのは、ただ営業だけに限りません。自動車の騒音についても、最近私なんか悩まされておる問題は、城山通りで昼夜をわかつた二人乗りのバイクが激しい騒音を発しております。これも大きな公害であろうと思います。何も営業だけに限ったことではない。深夜というのは。

大体、人間というのは、十時から五時までというのを睡眠時間としておるわけでございまして、一般に十時から五時までというのが深夜の定義であるうかと思っております。今いった特殊のものについては別でございまして。だから私は、これは十時から午前五時まで、午後の十時から午前五時までとすべきではないか。このように考えるわけでございます。

それと、これは先ほどの鈴木議員さんのほうからおっしゃっておったように教えていただきたいわけなんです。ということは一週間ばかり前にこういう質問を受けたわけなんです。ということは、現在の城山に犬をつれてあがらないようにという表示がしてあります。

これには、それなりの理由がありますが、一定のところに鎖が張ってあって、ここからあがってはいけません。犬をつれていっちゃんいけないということから毎朝何人かの方が犬をつれてあのところまで行くけれども、上にはあがっちゃいかぬというから、あがらせないことはけっこうでございますけれども、現在の城山のうしろのお屋敷に行く道路、あっちにはそういうあれがございまして、道路が犬のふんでたいへんどるもよごれておる。非常に困っておるんである。これも一つの公害じゃないか。これは一体



どこへ申し込んだらいいんだ。こういう苦情が実は私のところ  
に参ったわけなんです。これについてこういったもので取り締ま  
ることができるかどうか。ひとつ御指導いただきたい。(笑声)

○衛生課長補佐(佐山市太郎君) ただいまの道は公園の区域外に  
なることがまず一つでございます。今のような場合に畜犬のふん  
に對しましては、どこにもっていったらいいかということござ  
います。当然それは飼い主自身が自覚をすべき問題であらうか  
と思います。(笑声)

○二〇番(君塚喜三君) 飼い主がそういうあれがないから、そう  
いうことをやるんであって、三メートル以内の鎖をつけてつない  
でおくときには、鎖の長さが設定されてそれで規制されておりま  
す。しかし、ちゃんと鎖を持って散歩につれていきます。犬とい  
うやつは四六時中つないでおけばいいってしまふ。だから毎朝ふ  
んをさせながら散歩をやっておるわけです。そのために城山にあ  
がることができないというんだから、そこから引き返してみんな  
そこを通るもんですから、本当にそでらけで(笑声)非常にそ  
この地域の方からそういう苦情がきたのでお尋ねするわけ  
です。

○衛生課長補佐(佐山市太郎君) ただいまのふんについては、將  
来私のほうの畜犬関係を扱ってあるものでございますので、そ  
ういふ衛生指導について飼い主等にPRしたいと思ひます。

○二〇番(君塚喜三君) 先ほど、深夜という定義ですね。十時か  
ら翌朝午前五時までということにできないかということなんです  
が。

○助役(畠山 伝君) これは飲食店営業、その他の営業にかかわ

る深夜ですから、十一時から翌日の午前六時まででは除くんですか  
ら、十一時から六時まででは静かにしていけるというようにござ  
います。

○二〇番(君塚喜三君) ですから、営業ということだけを本位に  
公害防止条例を制定するなら、それはそれでけっこうでしょう。  
しかし、この公害防止条例は何も営業だけに限ったことではな  
いと思うんです。したがって、これは十時から五時まで労働基準法  
にありますように、主務大臣において必要と認めた地域、期間に  
限って十一時から六時までとすることができるといったよう  
な、そういう規定を設けられるのはけっこうでございます。こ  
れはそうでない限り、これは十時から五時までとしたほうがよい  
こういうふうに考えるわけです。それについての御意見をお聞き  
したいと思ひます。

○助役(畠山 伝君) 二十五条で申します午後十一時から六時  
までというのは深夜営業のことをさしておるわけなんです。す  
からあらゆる全般的に五時までというようなことは、これはこの  
条例では規定することはちょっとぐあいがあるんじゃないかと  
思ひますが、一応ここに六時までとあげたのは、深夜営業の時  
間を除くんだという意味でございます。

○一〇番(山本 昇君) ちょっと二、三お尋ねいたします。

公害防止条例まことにけっこうな条例でございます。これを  
制定することはけっこうですが、この中に字句の解釈につきま  
してちょっと一つ教えていただきたい。

第二条の第四号は「ばい煙、粉じん、汚水」云々とい  
うことがありますが、この粉じんというのほどの範囲のことを、ど



ういふものをいうのか。この点をまず第一に教えていただきたい。

それから、先ほど課長補佐から説明がありまして、いろいろ公害防止法の適用を受けるだろうと思う対象が調べた結果相当ある。かようなことでございますが、これに対してはもちろんいろいろその後において調査、立入り検査だとか、そういったこともやると思いますが、さらにそこにこれは対象だというような、対象になるということを何か標識する考えがあるのか。この点を一つ。

それからもう一つは、この附則の二に「この条例は公布の日から六カ月以内において、規則で定める日から施行する。」というふうに書いてありますが、こういう条例は一日も早く施行してやりてやるべきじゃなかりうか。かように考えますが、現在いつ頃から施行する考えであるのかどうか。この点も一つ教えていただきたい。もちろん条例の範囲につきましては、基準に基づいてつくられたということも考えておりますけれども、要するに鎮山市におきましては一日も早くこうしたものを制定し、そうして公害のない都市にしたいという考え方から一日も早く制定していただきたい。こういう考えでお尋ねするのでこの点を一つお示しいただきたいと思えます。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君）　まず第一点の粉じんでございますが、これはおもに鉄工所等から出る粉じんを主としてさしております。

それから、第二点の該当事業所に対する対象の表示でございますが、これは後日条例制定後に各事業所をチェックしておりますので、事業所等の集会をやりまして、それで再認識させるという

ふうに考えております。

それから、附則の施行のことでございますが、来年の三月三十一日ということに進んでおります。

○一番（山本 昇君）　まず第一点の粉じんでございますが、鉄工所から出るくずだと、これははっきりしたあれは何か基準があるのかどうか。ただ単に鉄工所で作るところのくずだけだということではきわめて範囲が狭いじゃないか。いろいろあると思います。仮りに製材所のおがくず、そういうものも当然これは風で飛ばされることもあるし、したがってただ単に鉄工所だけだという範囲を極めて狭く考えられることはどうかと思いますが、その点基準がはっきり示されておるかどうか。その点の一つ。

それからさらに、ただ単にこれだけでなく、要するに砂ぼこりの問題もあります。この点をどういふふうに考えておるか。合わせてお願いしたい。

それから、対象の事業所、その他のあれはいずれこれができたら対象の業者を集めてそうして啓蒙運動をやる。ただ啓蒙だけであって先ほどいったような一応の標識はやるつもりであるか。その点も合わせて。

それからさらに、来年の三月から実施の気持でいるというのはそれは何か根拠がありますか、その点も合わせてもう一回教えていただきたい。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君）　粉じんの問題でございますが、おっしゃるとおり砂そういったものも全部入ります。いわゆる「物の破砕、選別その他の機械的処理またはたい積」等に伴って発生するものは全て入るのだということで、砂とかおがくずそう



いった飛散するものは、当然紛じんの中に入ります。

それから、表示につきましては、公害対策審議会等もございすのでいろいろ相談いたしまして、それからの措置にしたいと思ひます。

それから、三月三十一日というのは、六カ月間ということと標準といたしまして、その間準備期間ということで三月三十一日とすることに申し上げた次第でございます。

〇 一番（山本 昇君） 一応対象のことにつきましてはわかりましたが、紛じんという項に關しまして、ただ単に鉄工所でなく、現実の問題といたしまして、先般私教育委員会のほうにもちよつとお願いした事実があるんですが、ある学校で校庭に毎年毎年砂を入れる。その砂が運動をやったりあるいは風のあるときになると付近のところにほとんど吹きつけられてしまつて戸もあけていられない。特に夏期あの暑いのに戸をあけていられないという事実があるわけです。これに対して善処方をお願いしたのでございますが、これは委員会のほうで早速何かの方法を取っていただけるものと私はそう期待しております。

期待をしておりますが、少なくとも市の設置してあるところのこうした施設において、こういうことによつて付近の住民に迷惑をかける。いわゆる公害を与えるというようなことがあつては、先ほど市長さんのおっしゃつたとおり、市の施設において公害を発生するようなことは申しわけないというお話がございましたが、こういうことも十分に考へて早急にこのことはやっていたいただきたいことをお願いいたします。

さらにまた、施行の日でございますが、公布の日から六カ月あ

るから三月三十一日というような考へ方のような今お話しがございました。またその間に準備もあるということでございますが、私は六カ月必要ないじゃないか。六カ月間なんてそんな長い期間準備する必要。これはもう早くやるべきだというように考えますが、ただ六カ月の期間があるから三月三十一日にやるんだというように考へ方はいちよつと納得いかないんですが、これは市長さんなり助役さんのほうからこの答弁をお願いしたいというふうに考えます。

〇 助役（畠山 伝君） おおせのとおりできるだけ早く施行いたしまして、きれいな館山をつくることは必要であると思ふものでございす。ただ、こういうことで規制もございすし、業者の方々の準備もございすし、またこういうことを周知徹底させる時間等も必要でございすけれども、公害防止対策審議会等の意見も伺ひまして、六カ月以内でございすからできるだけ早く御趣旨にそつような形で対処していきたい。

〇 一番（山本 昇君） 一応いろいろな事前の指導、その他の關係もありますので、いろいろかかると思ひますが、六カ月の期間があるからという、ただ考へ方でそういうふうなことをきめるのは私は納得しない。

しかし、助役さんのほうから六カ月以内という線がございすので、できるだけ早くそれが施行に努力するといふおことばはいただきましたので、私はこの点納得いたしまして一応私の質問を終ります。

〇 二番（田村源治郎君） 館山市の公害防止条例は、区域は館山市全体であるか、それとも館山市の漁港区域にも含んだものをい



六外 加

うものであるか。その一点と、漁港関係において堤防につくった風力によって塩分、こういうものが飛んできて相当の公害をきたす。その二点と、館山市は漁港を持っておる。音がぼんぼんして夜寝られないことが幾らもある。船形にしろ、富崎にしろ特に多い。また取引関係でも夜によらず、昼によらず騒音が激しい場合が多い。これは公害として取り扱うかどうか。

次は、館山市においては漁港関係は上から流すときは水はよこれてないんだ。港に入るときになつたものすごい悪臭をはなつ。これはいかような公害として、いい水を流しても下にいくと腐ってしまふ。下水道がわるいためにこういう場合はどういう処置をするか。三点。

それから、温度の上昇によって出た臭気いわる魚が二〇度においていいものが急に三五度になると臭気が特別はなはだしくなる場合がある。それは公害といえるか。どうですか。仮りにいうならそのあれはクサヤである。くさいんだからそれは公害としてさすか、ささないか。またそれにおいて加工に対してひらきをおこす場合にはハエがぶんぶん来ると、この定義において「動植物及びその生育環境を含む。」とあるけれども、決してハエを育てている訳ではない。(笑声) しかしハエがいくら飛んで来る。これは公害として扱うか、どうするか。そういう関係を一つ。

それから、現在市で行なっておるもので、温度の上昇において谷藤原のし尿処理場は、さっきは普通のとくに調べたものであつて何PPMといっておるけれども、実際に温度が上昇すると、あの谷藤原の処理場はくさいときは中に入っていられない。温度の上昇においてまた気圧関係においてもそういう現象が起こる。市

はこれはいかようにするかと、なきにしもあらず、必ずありますから、その場合はどうしてくれるか。

それから、盆なんかうるさくてしょうがない。念仏なんかやって、盆のかねも近所の迷惑になることも多い。あなた方はそれを公害として二十五条にあてはめますか。(笑声) 簡単に二十五条は考えて、しかし当然これは警察当局にまかせることによって二十五条ははずしたらどうかという観念。これは念仏だって何だってひっかかってしまいますよ。(笑声) 浜なんかで酒盛りをやる大きな声でもって、これもひっかかってしまふ。漁があつたといつて飲んで近所が迷惑する。近所は漁があつてお互いに喜んでおるけれども、漁があつたといつてこれは喜ぶことも公害になるのか。念仏をやることも公害になるのか。だから二十五条を私は減らしたらどうか、削ったらどうかという考えです。一つ御答弁お願いします。

〇衛生課長補佐(佐山市太郎君) ただいまの御質問の第一点でございますが、館山市全市にわたります。含みます。

それから、船の騒音にかけてはここに規定はございません。規制がありません。船の騒音には規制がありません。騒音についてでございますが、著しく人間生活をそこなう場合ということでございます。

次の側溝についてのご意見ですが、これにつきましては公害を起こす前に清掃面で行行政指導していきたいと思えます。

それから、水産加工のにおいのご意見ですが、あるいはハエ等のことでございますが、これも著しく多くの人が生活環境



までそこなわれるという場合についてはりっぱな公害になります。それから、藤原の処理場のことにつきましては、確かにその人によって異なりますけれども、あるいは人の臭覚、感覚によって異なりますけれども、そういう事態があることは事実でございますが、これに対しては極力そういうことのないように維持管理に努めたいと思います。

それから念仏等のことでございますが、（笑声）これも著しく人間生活をそこなう場合には公害という定義にあてはまります。以上であります。

〇二二番（田村源治郎君） もう一つ落ちていますよ。堤防。

〇衛生課長補佐（佐山市太郎君） 堤防のことでございますが、堤防の波のことについては今度制定する条例にあてはまりません。潮の關係でございますけれども、たゞ場所としては堤防までには至ります。館山市全域でございますので。

〇二二番（田村源治郎君） 館山市公害防止条例であるし、海の中はいかぬというならば堤防は陸上である。そこから人間がつくったものである。これは陸上です。それにおいて堤防をつくったから風で潮が飛んでいるんだ。そうでしょう。海の中はあてはまらないというけれども、堤防は人間がつくりあげたものですよ。あなたの趣旨なら公害ですよ。堤防がなかったら、みんな漁民であっても潮の飛ぶのに悲鳴をあげておりますよ。だから生活に關係してくるんだ。生活に關係するからがまんしているんだ。公害というものと生活というものを切りはなすかどうか。その点においてもっと館山市の公害防止というものは生活にあてはまるか、直接公害になるか、生活があるから公害になってもがまんしておる

ものがある。直接みんなが文句をいわなければ何でもいいんだ。文句をいったら公害になるんだ。解釈は妥当じゃない。それでしよう。生活がかかっている。近所でもそれによって生活がかかっているから文句をいわないというものがある。

船形における漁業に關係するものは漁港を持っておる。これは生活がお互いにかかっているから、お互いが公害があつてもがまんしよう。公害とはいわない。これは完全な公害ですよ。あてはめれば。船がぼんぼんものすごい。そこに生活がお互いに漁港關係のものが含んでいるんだ。文句をいわなければ公害にならない。そんなばかな話はおそろくないでしょう。それらの点を念仏もそうだ。（笑声）りっぱな公害ですよ。文句をいわないからこせいんですよ。文句をいうばかりはなんです。お互いが近所隣でつき合ひだから公害であつてもがまんする。だから私はそういう場合があるから二十五条を消したらどうかということをいいたわけですよ。りっぱな關係のない人だつたら公害ですよ。公害防止条例にひっかからない場合はないですよ。

私の質問しているのは、ですから漁港においてぼんぼん音がする。港の水が汚染されてくる。下水道がわるいために、あるいは下水道がよくつたつて水がくさつて下を通る。新鮮の水はないんだ。夏になりますと、船形も富崎も流れこまっしゃう。それを吸んでわれわれは魚をこさえておるけれども、衛生はごくわるいけれども（笑声）それでも吸むことはめんどくさいから、それでもって汲んでおる。だからやつておるけれども（笑声）そういうものは隣近所ががまんしているけれども、公害ではないと、隣近所ががまんすれば公害ではないんだという觀念ではいかぬと思う。



それらの点をはっきりさっきも述べたとおり公害と生活というこ  
とに対して公害といったら公害だと。ひっかかってしまうよう  
だったら困るし、漁港関係には公害防止だと、クサヤ干したら近  
所隣から迷惑し、公害だといったら、漁港関係はなりたちませ  
んよ。

館山市においては公害防止に対して特別区域というものを設け  
なければならぬはずですよ。この中に特別区域は設けてない。  
漁港関係に対して特別区域を設定すべきです。そうでなければ鮮  
魚加工業から漁船関係はゼロになってひっかかってしまいますよ。  
船も音がする。工場ぐらいのぼんぼん船形、富崎にでも特別区域  
を設けべきですよ。またこの公害防止条例に対しても館山市にそ  
ういろいろな関係のあるところは特別区域を設けべきですよ。  
市長はこれをしてこの中に特別区域を設定するなら、私はがまん  
しますけれども、そうでない限り漁村、船形、富崎の関係は全然  
漁港としてもなりたちませんよ。公害防止このとおりひっかかっ  
てしまいますよ。その点どう考えますか。もう少しくわしく聞き  
たい。

○市長（本間 譲君） 田村さんはずいぶんど念いりでこれを検討  
されておるようでございますが、あなたのおっしゃるようなこと  
は公害に入らないと思いますね。港のしぶきとか、念仏とか（笑  
声） 私はそういう種類のものは入らないわけだと思います。

まあ、いろいろあると思いますけれども、特別のことで住民に  
迷惑するといふようなことに明記されておるようなことが該当す  
るわけでございまして、田村さんのおっしゃるようなことは入ら  
ないと思います。

そういう意味において区域を指定しなくても私はこれでよろし  
いと思いますね。運営上から条例に基づいていろいろ解釈してい  
ただけがいいと思いますが、非常に田村さんはまじめにむずかし  
くお考えになって、そのことも一応けっこうと思います。御心  
配の点は公害には入らないと私は考えておりますからどうぞ。

○議長（吉田勇治郎君） 午前の会議はこれにて休憩いたします。  
午後は一時再開いたします。

午前十一時五十二分 休憩  
午後 一時 十分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十五名、休憩前に引  
き続き会議を開きます。

○二番（田村源治郎君） 市長がいわれたけれども、この漁港の  
近辺に住むそういうことは、この条例にあてはまらないというけ  
れども、魚を干してハエだとか、そういういろいろのものが発生  
発してもあてはまらないというけれども、この第二条の条例につ  
いては臭気、人の健康を害するような環境性こうりたわれて、定  
義的の第二条は、定義はかなり広範囲に考えてもよろしいと思う。  
市長はあてはまらないだけで、必ずあてはめずに漁港関係のこと  
は公害としてみなすかみなさないか。約束できるかできないか。  
さっきも質問したけれども。

○市長（本間 譲君） ただいま申し上げましたのは、田村さんの  
おっしゃる堤防にしぶきのかかるというお話しに対してお答えし  
たわけでございますが、そういうものは私はかからないのじゃな  
いかと思うですがね。それは受けるほうは漁民ですし、それを公  
害といったには、漁業家もいけないうし、それでは第一堤



防をおつこわしちやわなければならぬし、それでは漁民の方々に對してまずいじゃないかと思いますが、今の魚を干したときのおいのことのようですが、これもやはりあまりひどい悪臭ですといけませんし、もうけれども、やっぱり漁民同志のことだからそんなにきつく考えないほうがいいじゃないですか。それじゃないと漁業の振興にも影響してきましょし、大ぜいの方にえらい影響を与えるような悪臭をはなつ場合にはいけないでしよし、魚を干しておるぐらいならどうですかね。私はいいと思いますね。いかがですか。

〇二二番（田村源治郎君） 私はとにかく市長さんのいうとおり願えればけっこうですけれども、今は船形でも富崎でも海岸地帯において別荘地だとか、そういう住宅を建てて夏ばかりきたり、そうしてやれこれは公害だとか、原住民は文句はいわないんですよ。お互いに知り尽くしてありますし、昔から営業を行なっておりまして、船形、富崎あるいは西岬地区においては文句をいわない。また干すほうもそんなに迷惑をかけるような干し方はしない。煮干し汁に今までのようにたれ流しは特に気をつけているからしないけれども、よそから入ってきた人が文句をいうわけですよ。市に仮りに文句をいつてきた場合に公害にあてはめちゃうか、それだけなんです。一般の連中は昔から住んでいる人たちに對してはお互い漁業に従事したり、漁業に關係して生活し、そこで部落を形成しておるからがまんしますけれども、よその人が海岸地帯に別荘を建てたり、住宅を建てたりして夏遊びにきたりしていると、ちょっとして文句をいう。

私のところでは前に網を干したらみんな土地の人は文句をいわ

ない。その人がへどをはいたとかいって、お客がきてへどをはいたと文句をいつてきて、その網をなおせということでしょうがなから、伊藤さんに話して鳥久の場所にいけすのほうから持つていった。そういう状態があるわけなんです。土地の人は魚のにおいになれておるけれども、よその人が文句をいつて取れといへた。その場合市としてどういう考えですか。地元の人はいいいけれどもよその人が公害だ、公害だといつて夏遊びにきて騒ぎたてて、市長さんも知っておるけれども布良の黒川という人にやられた。困っちゃつてしょうがないから網をなおして、砂が飛んだからといって電話がかかて文句をいつてきた。文句をいつてもしょうがないから保健所まで取りに行つて、ブル頼んで取ったこともある。よその人が住宅を建てると、そういう公害のことをいつてくるということになると、こっちは困つてしまふ。地元の人はいいいけれども、そういう漁港關係を持つところにはかなり新しい人が住みつく、必ず漁港には關係なく生活をしている人が公害的のことをいいはじめる。

ただ、それらの点を約束してくれば、それを公害とは認めないと市がいつてくれば、一般の住民が公害ではない。あんなだけ公害だ。こういう環境性だからがまんしなさいと市がいつてくれば、説得してくれば公害とは認めないと。一般の人がいつてこなければ公害とは認めません。公害とはみなさないという厳格性をもつていたでいてこたえていたかどうか。その点です。そうすれば、船形、富崎は漁港關係、鮮魚加工關係、騒音に對するめぐりあるいは音、取引について騒音面があるけれども、原住民はがまんする。みんながいつてこなければ公害とみなさな



い。一件、二件いつてきても公害とみなさないと市長がいつてくれるか。約束は、市長がそれを公害とみなさないといつてくれればけっこうなことですけれども。

○市長（本間 譲君） 今のお話してございますが、どうしても漁港にいけば魚のにおいがすればあたりまえですよ。ですから、今までの漁業通念と申しますか、現在までの慣習上における程度のおいとし申しますか、いいと思いますね。

今、お話するように、漁業家もみんなが困るという声が大きくなる場合は別ですけれども、そうでない場合は、いつてきてもそれは自粛をこちらから奨励、自粛してもらいうようにその方にお願ひするようなことをしなければ漁業の振興上困りますね。ですから、そういうものは規則において除外するようにいたしたいと思っています。基本法は今御審議願ひしておりますけれども、施行規則においてそういうことは入れないようにやりたいと思います。それであれば漁業振興上非常に困りますから、そういうことでこれをはずすように施行規則でやっていくように検討いたしたいと思っていますから、またあとで田村さんのいろいろ御意見を伺って、そのために今までやっておって大したことがないものが、これができたために漁業もうまくいかないということはいけないわけですから、そういうことをはずしてやるように考えたいと思いますから御了承願ひします。

○二二番（田村源治郎君） 今、市長がいわれたことはもっともであるけれども、一人、二人がきても、とにかく一般にまわりの人が、漁家がまんというよりむしろ当然であると認めた場合には公害として受け取らないように、その施行のときに考えていただ

きたい。これにおいて質問を打ち切ります。

○一五番（和田一郎君） 二条の二に公害「事業活動その他の活動によって生ずる大気の汚染、水質の汚濁（水質以外の水の状態又は水底の底質が悪化することを含む）」とありますが、こうなりますと、市街地を流れてゐる下水、排水路等は当然この公害に属すると思います。

そうなった場合に、市街地に住む人は各家庭から流してある家庭排水というものが公害のもとになるわけで、そうなった場合市としては市街地に住む住民をこの公害の対象として当然うしろのほうに罰則規定がありますが、罰則の対象にするものかどうか、お尋ねいたします。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） お答えします。ただいまの市街地の側溝に関するところでございますが、この場合でもそのために著しく付近の生活環境がそこなわれておる場合には、それに対処するすべてを尽さなければなりませんけれども、それ以外のことは側溝の清掃ということに専念することによりまして、公害の防止を防ぐということであります。

○一五番（和田一郎君） ただいまの御答弁では著しくきたなくて苦情がなければよろしいということでありましたが、実はうちのほうでやっぱり問題になっておる畜産公害でもって、この間市と保健所がきまして指導を受けたんでありますけれども、どうも今の答弁とは違ひですね。流してはいけないんだということで、なぜいけないかという、土壌汚染とか、川がよごれるというんですけれども、著しくよごれなければよろしいということですか。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） 著しく生活環境を阻害される場



合ということでございます。そこなわれる場合ということでございます。著しくきたない場合ということじゃございません。そのためにもわりの人たちが生活ができないような状態におちいる悪臭をはなつ場合ということをしておるわけでございます。

〇二三番（菊井敏博君） 二五条について伺いたいんですが、飲食店営業の問題ですが、これは午後十一時から翌日の六時までの間、市長権限によって「営業時間の制限又は騒音の防止の方法の改善を命ずることができる。」ということになっておりますが十一時迄は風俗営業、飲食店、風俗営業の許可を持っておる業者の場合、警察の取り締まりという対象になって十一時まで問題はない。十一時以後音響器、楽器等は警察の対象取り締まり対象になって、こういうものは規制できるんですが、「その他客の出入りに伴う騒音を含む」ということになって、飲食店の営業が午後十一時から、要するに普通の飲食店ですね。営業が自由にできるわけでですね。夜明かし、終夜営業もできる場合がある。

こういう問題は、住宅地域内に風俗営業の許可がおりないために、普通飲食店にどんどんかわっていく。住宅地域内の飲食店がふえる関係で隣近所夜非常に自動車のクラクションの音、オートバイの音で近所が困っておってやめてもらいたい。こういうような苦情がずいぶんあるんですが、今まで自由営業のためにこの規制がないために営業がどんどんやられているわけですが、こういうものを市が今度そういう公害として認める場合には、許可の取り消しとか、営業時間の制限というものはどのような方法で積極的に進めていくのか、御意見等をお伺いいたします。

非常に二十五条は、市役所の条例としては、非常に決断をもつ

てやっただと思うし、また非常に重要な問題だと思うので。

〇助役（畠山 伝君） いろいろ住宅地の付近にそういうような形のものが増えてくると思いますが、これにつきましましては、今後対策審議会の意見を聞きながら、規則の中で規定する基準と申しま

すか、というふうなものをつくって……。

〇二三番（菊井敏博君） ここに、条例に「周辺の生活環境が著しくそこなわれていると認めるとき」と各条文にうたっておりますが、これは人の考え方、受け取り方で人の考え方によってある程度違うと思う。役所の方がこの程度は著しくそこなわれてないといっても、私のところは夜寝られないとかいう受け取り方が違うわけなんです。

そうすると、要するにオートバイそういう音が一つしても神経質の人は寝むれない。病人の人は寝むれないということになると非常に市役所そのものがこの条例によって自由の営業の監視、営業の阻害というものも非常に出てくるんじゃないかと思う。

そういう点で、私はこの二十五条の条例をつくってまで、営業の規制まで役所があるのかないのかということには疑問に思うんです。今ほりほりにいっぱいありますよ。住宅地の中に自動車クラクションを鳴らしてうるさいとか、オートバイがそばを通過してうるさいとか、こういう条例ができると非常に近所の人がかういう飲食店をやめさしてくれとか、いろいろくると私は思うんです。そういうものに対して適当な判断、適当の処置がこの条例によってできるのかできないのか。そうしてあなた方が営業飲食店をやめさすようなことまで干渉しなくてはならないのか。こういうことを条例に定めなければならぬということ非常に疑問に思う。



こういう条例ができて、十一時過ぎこういう場合に市役所の権限によって制限できるんだ。やめさせることができるということになると相当の反響によって、住宅地域内にある飲食店のまわりの人たちに、また残業をやっておる工場の人たちの近所の人たちが、これを何とかしてくれと非常に市役所にくると思うんです。それを適当に判断して営業の自由というとおかしいけれども、営業権まで立ち入って条例をつくってやらなくちゃいけないもんですかね。この点一つ。

○助役（畠山 伝君） 営業関係でございますから、なかなかむずかしい問題だと思いますが、しかしその人の受け取り方でいろいろあるということはおっしゃるとおりでございます。

ですから、このことにつきましては、いろいろ対策審議会のいろいろの立場の方々をご委嘱申し上げてつくっておるわけでございますが、これは運営でひとつよく話し合いをして、少しでも皆さん方にそのことの少なくなるような運営でやって参りたいと思います。よろしくどうぞ。

○二三番（菊井敏博君） 助役さんの意向わかりますので、公正な組織というものをつくって、こういうものに対する検討と、またこういう飲食店の人たちも、夜残業を遅くやる人たちも、該当する人たちとよくこういう条例ができてこうだということで、協力という問題を今後よくPRしてやっていただきたいということを要望して終わります。

○二四番（西村真次君） 今までの同僚議員の質問を繰り返すようではないへん恐縮でございますが、一点だけお尋ねいたしたいと思います。

第三十条規則への委任でございます。この条例当然規則に委任することになるわけですが、この条例を受ける規則の草案でもおできになっていのかどうか。この点まずお尋ねしたいと思います。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） 現在、規則については立案中でございますが、大体おもなものといたしましては第二条関係の定義関係、それからその中で特に二条の五号、六号、七号の特定施設とか、特定作業とか、特定建設作業とかそういうものを規則で定める。また九条関係の規制基準等、それから二十四条関係の特定建設作業の実施届についてとか、それから二十四条関係の拡声機の使用の制限とか、二十五条関係のただいま深夜騒音にかかると営業規制とか、あとは事務的な立入り検査身分証明書とかそういうものをまず規則にうたいまして、先ほどいいましたように騒音、悪臭、震動等に対する規制基準等を検討中でございます。

○二四番（西村真次君） 大体原案ができていますようなお話しですが、けれども、この施行が六カ月以内、先ほどちょっと問題になりましたけれども、来年の三月三十一日には施行したいというようなお話しでしたが、それまでに実施される、施行に至る準備というものが整う自信がやはりあるか。重ねてお尋ねいたします。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） 六カ月以内と申しますのは、先ほど申し上げましたとおり、この条例は施行になりますと、各罰則規定が適用になります関係上、余裕、準備そういったものを持たせなければならぬことと、また持たなければならぬというふうに六カ月以内ということでございます。



〇二四番（西村真次君）

先ほど同僚議員から一日も早く実施に移すようにという御意見もございましたが、私はいささか見解を異にいたしておるわけでございます。

と申しますのは、この条例をみますと、今までに館山市の他の条例にみられないようなきわめて私は重要性を持った条例ではなからうか。ことに非常にきつい罰則も備わっております。こういう点をみますとき、この条例の実施にあたってはきわめて慎重に細心の注意をはらった運営というものを考えた上でなければ施行できないものではないか。こういう気がいたすわけであります。

したがって、むしろ私は六カ月以内というような期間において無理やりにその間に規則をきめていくというようなことが妥当であらうかどうかという心配があるわけです。むしろもっと時間をかけてもゆっくり慎重に考えた上で実施に至るべきではなかったか。こういう見解を持っております。

と申しますのは、今まで何人かの同僚議員さんの御質問の中にございましたけれども、全く私どもの予期しないような非常に細かい公害的な事実というものがあげられておるわけでございます。この条例は比較的高い立場に立っての条例、まあ条例そのものが一般的というか、普遍的といえますか、そういう立場からつくられておりますので、個々の場合について条例でうたうということはもちろん不可能でございます。しかし意外にこの条例の文句に出てこない公害というものが身近かにかも細かい部分に散在しておるといふことを考えますと、この運用というものがそういう一々の細かいものを念頭においての運営がなされなければならぬのではないか。こういう気が本当にするわけでございます。

したがって、条例はきめられましたけれども、この実際上の運用というものは規則によって行なり。私はむしろ条例より規則のほうが大切だと考えております。ただ規則につきましては私共のタッチする限りでございませんで、それでなおさら心配になるわけですけども、こうした私どもの心配というものをよくお考えいただいて、また先ほどから同僚議員の一人あげられました個々の場合、こういう点を総合されました、運営に誤まりのないようにいい規則を、細かい、広い規則をつくっていただきたい。こういうことを切にお願い申し上げたいわけでございます。

せっかくこの公害条例をつくって、その公害条例のためにみずから市が何か追い込まれるような立場になるようなことがあってはならないんじゃないか。こういうことも心配になりますので、特にこの点を要望申し上げます。

〇三番（流山源次郎君）

館山市のりっぱな条例ができて、また今後におきまして細部において公害の基準というものがはっきりしてくると思いますが、私ここで一つ東京都の例をとって市のほうに要望しておきたいと思っております。

その問題でございますが、昨年来東京都の柳町におきまして民間の診療所の所長さんがオキシダントの濃度について発表して非常に新聞紙上で大きな問題を起したのでございますが、これに對しまして公害問題に非常にきびしい東京都において、その東京都の公害関係の方が測定したときに、その診療所の先生が発表した十分の一の濃度しかなかったということで、それが後日まで非常に問題になっておりました。

ところが、その後の調査によりますと、一般の診療所から発表



されました濃度の測定器というのは、その先生が自分の全財産をはたいてまで買入れた最新式の機械であつたということも判明したし、また東京都がはかつてその先生の十分の一しかない濃度であるということが、その他の地区の濃度の測定と対してみた場合に、北海道の札幌ではかゝたものの三分の一の濃度しか東京都ではかゝたのではないという、非常に公害問題に対する国民の気持をまどわせるような非常に大きな問題が出ておりましたので、館山市といたしましても、りっぱな条例ができた時点におきましては科学的なまた血のある条例を施行されて、館山市民の公害に対する、公害から館山市民を守っていただきたいと思つて私の要望にかえさしていただきます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

## 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を委員会付託を省略することに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。よつて決しました。

## 討 論

○議長（吉田勇治郎君） これより討論を行ないます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） ただいま西村議員さんのほうから規制基準だとか、要するに公害条例の内容を相当きびしくしなければならぬのは、大体規則の中で規制基準とかそういうものが出てきてはじめてこの公害防止条例がその線にそつて生きていくとい

うことになると思つてです。

ところが、まだ検討中ということとで規制基準やその他規則で定められるようなことが、ただいま申されましたようなことが具体的にはまだ出てないわけです。ですから、そういうものをいそいで規則のほうではつきりきめて、それをもとにして条例を、この案をまた確かめるといふようなことから、私は継続審議にして規則ができた上に立つて、この条例をきめたほうがいいのではないかと。今いそいでこれをきめて、そして規則できめる内容がわからないままいふことはちよつと疑問だと思つてです。そういう点からこの議案に対しては継続審議で、より慎重に進むべきだといふふうに考えます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。――討論なしと認めます。よつて討論を終ります。

## 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決を行ないます。本案に対する採決は起立により行ないます。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よつて本案は原案どおり可決されました。

## 議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、議案第五十八号館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の制定についてを議題といたします。



議案第五十八号 館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の制

定について

質 疑 応 答

〇二八番(田中祿郎君) 二、三お伺いしたいと思います。

廃棄物の処理ということは、ごみとし尿ということにかかって  
あると私はこう考えるものでございますが、どうもし尿の匂いが  
市民が非常にまだ苦情といいますか、いろんなあれがあるわけな  
んでございますが、ちょっと二、三お伺いしたいと思いますが、  
実は今委託しております業者に対して自動車の数が何台、大型が  
何台、中型が何台、小型が何台ということと、それから別表第一  
に出ております一般家庭の収集回数(月一回を標準とする。一回  
を越える分一回についてはなにがしかを加算するということにな  
っておりますが、これは月一回の便つぼがあるわけでございます  
が、二回の便つぼというのを御調査なさったことがありますか、  
ないですか。それをちょっと教えていただきたい。

それからもう一つ、その下にし尿収集用のホースの延長が三五  
メートルを越えるときは七十円を加算すると、館山市でも道路の  
非常に狭いところがございます。大型のバキュームカーは入らな  
い。小型のものを持っていかなければならぬという場合がございます  
ますが、そのホースを三五メートル以上延長する家庭が何戸あり  
ますか、これを一つ教えていただきたい。以上であります。

〇衛生課長補佐(佐山市太郎君) お答えします。

清掃車の自動車の数でございますが、小型が一台、普通車が七  
台でございます。

それから、月二回の収集戸数は八百六十戸でございます。

それから、ホース延長のどうしても延ばさなければならぬ延  
長の数は、約四百十一軒でございます。三五メートル以上の対象  
は約七百七十ありましたが、今度調査しまして実際にどうしても  
延ばさなければならぬというのは約四百でございます。

〇二八番(田中祿郎君) そういたしますと、普通車で大体何リッ  
トルぐらい入りますか。小型のほうでは何リットル入りますか、  
おわかりだろうと思いますが、それを教えていただきたいと思  
います。

〇衛生課長補佐(佐山市太郎君) 普通車で一、八〇〇リットルで  
ございます。小型では五〇〇リットルでございます。

〇二八番(田中祿郎君) 小型でもって四百十一軒入らなければな  
らないといいますが、小型は五〇〇リットルしか入らないという  
ことでございますが、小型が一台しかない。これがもし故障でも  
起こした場合はどうしても普通車で取らなければいかぬというこ  
とになりますと、普通車を持っていきますと、四百十一軒がもっ  
とふえることになるのじゃないかと思ひます。そうしますと、ど  
うしても七十円の加算をしていかなければならぬ。こういうこと  
になりますと、月に二回のあれば八百六十戸あるということなん  
ですが、月二回まんべんなく回わるということはないと私は思  
います。特に夏あたりはこの家庭でも非常に困っておるよう  
なわけなんです、請求しますと順番があるから待ってくれとい  
うようなことをいっておるようですが、これを市の指導として、  
たとえば八百六十軒のうちを、あんたのところは二回行ったかと  
一回のところは一回でいいんだというような指導を各家庭にして



おいでになるか、なりません。それをお伺いしたいと思います。  
〇衛生課長補佐（佐山市太郎君） これにつきましましては、このたび人頭制のシール等配布の際にそういうものを合わせて指導いたしました。

〇二八番（田中禄郎君） 次はホースの關係でございます。ホースの關係でございます、もし小型一台のところは車ですから故障を起こす場合もあると思います。その場合三五メートルに対して七十円取られるんだというようなことがわかってゐるわけなんです。ございますが、これもやっぱり一般市民にそういうことを申し上げておかないと、やっぱりトラブルが起きるんじゃないかというふうに私には考えられるんです。

小型車が一台ですから、いつ故障を起こして取りにいけないなるかもわかりませんが、ということも考えられますが、やはり一日でも遅くなるとたまってきますし、これを不法投棄ということも各家庭ではできないと思いますが、こういうことをPRして市民に知らしておく必要があるんじゃないかと思う。それでなくても月に二回いくのも一回しかこないんだという苦情もあると思います。それを業者のほうとよく話し合いなすってですね。清掃のほうも文化都市ですか。清掃都市ですか、建設の一助でございますし、もっとも大切なことでございますので、そういうことをよく業者とお話し合いの上でこれを施行されることを希望いたして私の質問を終わります。

〇一〇番（渡辺章治郎君） 先ほど公害条例の中で、特に家畜のし尿の処理問題が出ておりましたけれども、この清掃条例の中には家畜のし尿の処分というようなことは出ておりませんが、酪農振

興の立場からみても、家畜のし尿処理ということが非常に重要になっておると思うんです。

そこで、家畜のし尿処理場そういうものを市がつくる必要があるのではないか。現在処理してゐる状態をみますと、ほとんど野ざらしというよりな形で、それがさっき公害の中でも出た悪臭をはなつ。あるいは河川に流れて河川を汚濁するという。こういう公害も起こっております。この公害を防ぐためにも、一つはし尿処理場をつくる。家畜のし尿処理場をつくるということ、もう一つは各農家、生産者の方々が自分で処理するということになりますと、かなりむずかしいから野べに積んでおるといふことになったと思うんです。

こういうことで、公害防止条例からいえば、企業の例が責任を持つということと業者が公害を発生しないように施設をつくるということになりますと、相当多額の資金が必要になるわけです。今農家の状態が非常に経営が困難になっておるといふ中で、こういうところに金を使うということが、個人の事業としては非常にむずかしいと思います。

そういうことから考えまして、一体公害を防ぐという立場と、それからこういう清掃条例に基づくし尿処理という立場から、市のほうではどういうふうに考えておられるのか。私は家畜のし尿処理場が今のような中小、零細業者からみたら、市としては非常に必要じゃないかと思ひますので、この点どういうふうにお考えになっておるのか、お聞きしたいと思います。

それからもう一つは、許可条項でありますけれども、この清掃条例の中では許可がただ許可証を出すということだけしかありま



せん。前の清掃条例をみますと、清掃条例十三条では、市長が条件をつけて許可するとか、そういう内容になっております。したがってどういふ条件で許可するのか。そういうようなことが成文化されております。

同時に、十三条の中にある許可の取り消しの問題ですが、これは業者が市のそういう条件を勧告しても守らなかった場合、許可を取り消すことができるということになっておりますが、この条例をみますと、そういう明文がはっきりしていない。規則の中で定めるといっても重要な条項になりますので、これははっきりと条例の中に盛り込む必要があるんじゃないか。この二点についてお伺いします。

○農産課長（石井 謀君） お答え申し上げます。

家畜のし尿処理問題につきましては、現在多頭化ということで牛の頭数が多いわけでございますが、この問題についても私も非常に頭をいためておる問題でございますが、県におきましても最近に環境保全の対策実施方針というものがきまっておりますわけでございますが、この方針に基づきまして逐次各市町単位に協議会ができるわけでございますが、そういう中でいろいろ検討することになるかと思いますが、まず一つの考え方としては有機質の肥料でございますので、それを草地等によります還元するということを私どもはしろうとで考えるわけでございますが、最近酪農の場合には多頭化が進んで、そのえさが草地造成という形で採草しておるわけでございます。そういうようなところに対してふん尿の有機質還元ということを行なっておるわけでございますが、この場合においては全部が全部そういうような形で

でき得るような状態とできない状態とあるわけでございますが、つとめてそういうような方法に指導しておるわけでございます。

その次に、本年度はじめてのケースでございますが、まず牛ふんの処理をいろいろ考えてみたわけでございます。これは約十坪程度のビニールのハウスを建てまして、その中にべつついた牛ふんを流し込むわけでございますが、大体現在できあがりまして試験済でございますが、三日乃至四日で牛ふんそのものが固形しまして、どこにでもあるいは砂の中にも入れましてどこにでも持ち運びができるような体制にいたしました処理を考えていきたい。本年度は二カ所試験的に実施いたしましたので大体先般みて参りましたが、成功しておるような状況でございます。

なお、市の経営によって家畜のし尿処理の問題については現在のところまだ考えておらないわけでございますが、今申し上げたようなことでいろいろ畜産関係の処理問題を検討あるいは指導しておるわけでございます。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） 廃棄物の処理業並びにし尿浄化槽清掃業の許可並びに取り消し等の項目を条例に、重要なものであるから条例に盛りという御意見でございますが、御承知のように許可につきましては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律の第七条にも、第九条にありますとおり、あるいはその許可の取り消しは第七条の六項にもありますとおり、すべて市町村長とございますので、内部規定でございますして、今の許可条件、許可の取り消し条件を規定する関係がございますので、規則で定める予定でございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 農産課長さんの話では、ふんのほうは



乾燥してということですが、この乾燥する設備そういうものは相当高い額になるのかどうか。ちょっとそれをお聞きしたいんですが、費用はどのぐらいかかるのか。

○農産課長（石井 謀君） ビニールの約十坪ぐらいでございますが、一棟が全部新築の場合に九万ぐらいかかると思いますが、これは決して新しいものでなくても古いものでもちっともさしつかえないわけでございますが、新品の場合には約九万程度かかるわけでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 牛一頭で九万ですか。どのぐらいの頭数にすれば、大体一軒の家庭で三頭とか多いところで七頭とかそういう状態になっておりますが、何頭ぐらいの規模ですか。牛の数にして。

○農産課長（石井 謀君） ふんの場合には、十坪で十頭の牛が一週間程度そこに流し込めるといふようなことでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） この問題は、相当一部の酪農家にとつてはそういうことのできる資産のある人はできるかもしれませんが、全体からみたらやはり相当金のかかる仕事でありますので、前の公害防止条例審議の中では、助役さんは何か公害防止についての助成措置ができるような、そういうお話したんですが、資金的な面でそういう公害を防ぐと同時に、酪農振興の立場に立ってふん尿処理をする装置あるいは設備をする場合に、資金の援助とかあるいは融資とか先ほど申しましたが、利子補給をして負担のかからないような方法で、そういう設備をすることができるとかどうか。そういう点についてちょっとお伺いします。

○助役（畠山 伝君） 畜産公害でございますけれども、これにつ

きましてはいろいろ融資等県も考えておりますので、ですからケースバイケースでいろいろ事情も違ふと思ひますけれども、そういう面で改良する場合には融資の道も考えておるようです。

○一〇番（渡辺軍治郎君） これは清掃と公害と大体くつついたような形で起こるわけですから、公害を防ぐという立場から家畜のし尿処理の問題は、財政的に援助するような、融資をはかるようなそういう道が開かれておるとすれば、乾燥するようなそういう設備をできるだけ多くつくって、特に河川に近いところとか、都市に近いところ、要するに悪臭とかそういうものを規制するよりなところには、早くそういう設備をするように市のほうでは指導、援助といひますか、そういうようなことを十分ひとつやってみてほしいと思います。

それから、条例の中に許可条件、許可条項等あるいはその取り消しとかを規則で定めるといふような話がありましたけれども、これはやはり前の清掃条例と同じようにはっきりとこういう問題については非常に重要な問題ですから条例できめていくべきものだといふふうに考えますが、重ねてその点について規則で定めればいいといふことはわかりますが、しかし前の条例からみしても、条例の中ではっきりと許可と許可条件、それを取り消す関係というものが条例ではっきりきめておるわけですね。そういう前からの実施した経過もありますから、そういう点から考えれば当然これは条例できめべきものだと思ひますが、そういう点についてもう一回、ちょっと不満といひか、疑問がありますので重ねてお伺いします。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） 今まで条例にあったのは、御承



知のとおりし尿浄化槽清掃業というのは法的には明文化していません、ただ汚物取り扱い業者つまり汲み取り業者のみにいて処理されておいた。一本だったわけでございますが、今度はし尿浄化槽清掃業というものが一つの業として分離されて、本条に明文化されましたので、その許可条件、その取り消し条件等をくわしく市長は定めなければならぬという指導のもとに規則で定めたいわけでございます。

〇一八番（安西益男君） し尿並びにごみ処理の問題は、非常にこれから重大な問題というふうになっていくと思うわけでございますが、これに対処するこれからのあり方について若干お伺いしたいわけです。

現在、し尿処理の処理場並びにごみ処理場の処理施設は今後さらに量的に増大していくことは当然考えられるわけでございます。そこで、し尿処理場の場合にしても当初から現在相当やはり処理能力が低下しているんじゃないかということも当然考えるわけでございますが、こういった点等をちょっと御説明願いたい。それとまた、今後の対策についてどのように考えていかれるかという面の方針等お伺いしたいだいたいと思います。

〇衛生課長補佐（佐山市太郎君） ただいまの御質問でございますが、確かにし尿、ごみとも現在は、し尿は四五キロに対して平均五七キロ以上。それからごみは三〇トンに対して四三トン以上出ているわけでございます。確かに能力の低下が認められるわけでございますが、し尿につきましては、現在のところは消化促進剤によって行なっている始末でございますが、ごみに対しましては残業等のあるいは埋め立て処理ということで補っておりますが、

し尿については将来のことでございますが、し尿についてもある程度の増設あるいはごみについても同じくそういうことの対策を練らなければならぬと思います。

〇一八番（安西益男君） 現在すでにその時点にきておるといふことはお聞きしておるわけでございますので、これからは先ほど申し上げましたように、処理能力いっぱい以上のものが現状であるというふうに思えるわけでございます。

そういうことで、一時的に薬品とかそういう処理しているというふうなことでございますが、当然これからやはり広域的な立場でそういうことも検討されていくわけでございましょうけれども、そういった点の対策といえますか、広域的な面で考えていかれるのか、あるいはまた市独自で増設というものを考えていかれるか。そういった面をお聞きたいと思うわけです。さらにまたこの点につきまして財政課等では検討されておるかどうかという点等も合わせてお聞きたいわけです。

〇市長（本間 譲君） し尿処理の問題につきましては、現在飽和点に達しておることは御承知のとおりでございますが、広城市町村ができてからは火葬場、し尿処理場、消防、危険物の処理等をする事になっておるわけでございますけれども、現在し尿処理の位置についていろいろ検討をしておりますが、これはなかなか住民の反対があってむずかしいですね。

しかしながら、いろいろ県有地やなんかを探して何とかやろうということでは広城市町村圏のほうで検討をしておるわけでございますが、館山市もそこに参加しておりますから、そのほうに依存するというのが現状であるわけでございますが、広城市町村圏



でもなかなかどこでおやりになってもこれは住民が心よく思わないで反対というのが普通でございまして、なかなか困難性がございすけれども、何とか広城市町村圏で安房郡全体を通じてまかなえるようなものをつくるというふうなことでございすますが、いろいろお話しもありますが、地上に露出しておったんではいろいろ反対もあるから地下につくろうというふうな説もございすますがまだ何といつても土地の取得、住民との了解という大きな問題がございすますが、これからひとつ実現するために大いにやろうと考えておりますが、館山市においては広城市町村圏のし尿処理場に頼っておるわけでございますので、よろしく。

〇一八番(安西益男君) ただいまの御説明で広城市町村の方向で進んでいきたいというふうなお話しがございすけれども、これを実際に進めるといふことは困難性があるというふうに感ずるわけでございますが、いずれにしても処理状況というものが現在いっばいということでございますので、何にしても現状ではし尿処理場におきまして、あるいはまたごみのほうの状況もますます増大していくという現況の中で、なかなか困難性もあるうかと思ひますけれども、積極的にまた取り組んでおるといふことでございすので、なお市として一年ごとにも増大化していくと思ひますので、十分御検討願ひたいと思ひます。以上です。

〇二番(林 豊君) 一、二お尋ねいたします。

産業廃棄物とここに書いてございすけれども、実際現在市で行なわれているところの産業廃棄物というのは具体的にいつてどんな種類のものであるか。ここに紙くずとか、木くずというものがありますけれども、農薬用ビニールであるとか、一般廃棄物の

中に含まれるであろうところのビニールの廃棄袋というものはどんなふうに考えているか。この点を一つお尋ねします。

それから、これは前の公害の問題ともからんでくるんですが、最近どんどん高度化する農業技術においてかなりビニールの使用がひんばんに行なわれておる。将来このビニールによるところの公害ということも当然起こってくるんじゃないか。河川の汚染などをみますと、非常に整備をされた河川においてはそれでもありますけれども、整備されないところの河川においてはいろいろのものがひっかかて、それが非常に流水の妨げにもなるし、あるいはきたないということでも非常に大きな公害となっております。この点について農薬用のビニール等はどんな考えを持っておられるか。もしもみずから処分することが困難の場合において市がどのような方法でこれに対処してくれるか。

それからもう一つは、ここに別表の第一のほうに犬、ネコの死体の処理ということが一頭について二百円というふうなことがうたわれております。実際にこういうふうなことが市において行なわれておるかどうか。こういう必要性が現在あるのかどうか。保健所のほうに持っていくてしまうと、保健所では反対にお金をくれるんです。一頭について五百円。これが市では処理をするで一頭二百円取られる。この関係はどういうわけで保健所では反対に金をくれる。市では反対に金を取るんだ。これも合わせてお聞きしたいと思ひます。

〇衛生課長補佐(佐山市太郎君) ただいまの御質問のビニールでございすますが、御承知のように産業廃棄物と申しますのは、事業活動に伴って生ずるものを産業廃棄物といわれまして、その定義



が定められておりますが、ただいまのビニールにつきましては、これは県知事の責任において処理されなければならない産業廃棄物としてあげられておりまして、現在では県庁の中で各課からできまして、協議会が結成されて公社方式にしてそのビニールの処理にあたるというのを聞いております。それで、館山市の場合、ここにある産業廃棄物というのは、一般廃棄物と処理できる廃棄物にしたわけでございます。

それから、犬、ネコの関係でございますが、御承知のように犬ネコの場合に、生きている場合には保健所は犬条例の関係で狂犬病予防の関係から規制されておるわけでございます。死にますとここに定義がございますが、犬、ネコの死体はごみとなるわけでございます。廃棄物になるわけでございます。そこで、廃棄物の処理として処理料を二百円いただく。こういうことでございます。二番（林 豊君） 現在、市では実際にこの犬、ネコの死体を処理をしているかどうか。それはどこでやっているかどうか。

それから、さっきの農業用ビニールでございますけれども、公害のほうで合成樹脂であるとか、ゴム、硫黄これを自分でかってに燃した場合に、周囲の者に非常に影響を及ぼす。有害であるというふうなことで、こういうような条例が制定をされれば、必ずこれはますますもって河川はよごれてくるというふうなことが私は考えられると思います。ですから、県でやるからいいというふうなことでまかしておくわけにも私はいかないと思います。市においてこういうような農業用において使ったところのビニールをどういうふうにして回収をし、また処理をしていかれる計画を持っておられるか。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） 犬、ネコの死体については、現在正木の処理場で、その料金は今の規定されております今の料金と同じでございます。

それから産業廃棄物のものにつきましては、先ほど申し上げましたとおり、県からもうしばらくしますと、九月と申しますから今月中だと思えますが、指令が出ることになっておりますのでそれまで市当局としてはその通知を待つて処理をすることにしております。

○二番（林 豊君） 一般廃棄物の中には、現在こういうものは全部含まれておるわけですか。含まれて処理をされておるわけですか。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） ビニールと申ししましても、多量のものについては含まれておりません。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

#### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案については委員会付託を省略したいと思いますが、これに御異議ありませんか。――御異議なしと認めます。

討論を行ないます。討論ございませんか。――討論なしと認めます。

#### 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決を行ないます。



本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。——御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

暫時休憩いたします。

午後二時十八分 休憩

午後三時 七分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

## 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第五、議案第五十九号館山市清掃施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第五十九号 館山市清掃施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

## 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略することに御異議ございませんか。——御異議なしと認めます。

## 採決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。——御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

## 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第六、議案第六十号館山市豊房育成牧場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第六十号 館山市豊房育成牧場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

## 質疑応答

○一〇番（渡辺軍治郎君） ちょっと聞いておきたいんですが、これは入所というんですか、牧場に入れる牛の延長ということですが、酪農側からみて一カ月延長するということは、困る状態なのか。大体これは預ける側がこの程度のことは了解しているのかどうか。そのへんのことをちょっと。

○農産課長（石井 謀君） ただいまの質問にお答え申し上げますが、この入牧の月の延長でございますが、畜産奨励委員会とか、各畜産団体等の意見を聞きながら、このようなことに改正をお願いしたいということでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

## 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論省略するに御異議ございませんか。——御異議なしと認めます。



採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ありませんか。――御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第七、議案第六十一号館山市酪農振興事業資金利子補給条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第六十一号 館山市酪農振興事業資金利子補給条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略することに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第八、議案第六十二号昭和四十七年度館山市一般会計補正予算第四号を議題といたします。

議案第六十二号 昭和四十七年度館山市一般会計補正予算（第四号）

質 疑 応 答

○一〇番（渡辺軍治郎君） 支出の面の二款一項一目の市長車購入に関する面ですけれども、ここにはただ金額だけが出ておりますが、市長車の今まで乗用していた車の下取りといいますが、そういうような関係がどのようになっているのか。聞きたいと思ひます。

○秘書課長（太田博雄君） 現在使っております乗用車の下取りは三十七万ということになっております。

○一〇番（渡辺軍治郎君） その三十七万というのは、一応収入の部に入っておるんですか。これは支出の分なんです、これは相殺してありますか。

○秘書課長（太田博雄君） 相殺した値段でございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） そうしますと、財産処理の問題ですけれども、一応今までの下取りの車の入金は入金として処置して新しく購入するというふうに処理されたわけですか。

○秘書課長（太田博雄君） ただいまの質問、すみませんがもう一度。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 結局、古い車を下取りというのは売るわけですね。会社に売って、当然その金は入金ということにしなければ、減価償却をしなければ資産がゼロにならないわけです。



そうして新しく車を入れるという場合には、新車の価格で入れるということと相殺するということになると思うんですが、その処理のしかたについて

○財政課長（長谷川広治君） 私どものほうからお答えを申し上げます。

今までのやり方も、現在の予算面にございますとおり、下取り価格を相殺した金額で歳出をいたしております。なお、備品台帳等につきましては、正規の価格と下取りの価格を明記してございます。

○二八番（田中祿郎君） ちょっとお伺いします。

歳入の部一二ページ、東京航空局無線設置整備事業補助金、この無線設置というか、無線はどこにできるか、これを一つお伺いしたいと思います。

それからもう一つ、一七ページの畜産業費の工事費で家畜保護舎新築工事請負費八十一万四千円ですが、これがございしますが、これは家畜庁舎というのとはどこにできるんですか。これを一つと

それから、その下に土木費の橋梁費の中で五百八十二万三千円公有財産購入費というのがございしますが、この公有財産というのはどこからどのぐらいの面積を買い入れたか。これを一つお伺いしたいと思います。

○農産課長（石井 謀君） 最初の質問の無線標識所の場所でございますが、豊房育成牧場の現在畜舎が建っておりますそのすぐ上の山の一番高い台地でございます。

二番目の一七ページの工事請負費の家畜保護舎新築工事請負費でございますが、これは補助対象の事業名がこういふふうになっ

ておりますので、このような家畜保護舎の新築ということで出しているわけでございますが、内容につきましては、家畜保護舎の周辺に防寒テントをつくる事業でございまして、あそこ地域が冬になると非常に寒くて〇・五度前後に下がる。そういうようなことで牛を飼育する場合に寒いと非常に進みがわるいという、障害があるということではいろいろ専門家の方々に聞きましたので、これを補助事業に承認いただきましたので今回計上するわけでございます。

なお、そのほかにスタンションと申しまして、牛にえさを与える場合に、現在では牛と牛とが鉄のワクの間からえさを食べておるわけでございます。この場合にいつでも自分がやめてほかに移動でき得るようになっておりますが、これは非常に牛の強い牛が自分の前のえさを食べてしまうと、ほかのほうにいて弱い牛のところに行って食べてしまうということが今までありましたので、そういうようなことではまずいということで、一応ワクの中に入った場合には上からサクをおろしまして、その自分の前のえさおけだけを食べってしまった場合に、次のにいけないように首の上を金で締めるような施設をスタンションといっておりますが、そういう設備をしたいということをお願い申し上げたいと思うわけでございます。

○土木課長（飯田治男君） 公有財産購入費五百八十二万三千円につきましてお答え申し上げます。

これは昭和四十五年度に行ないました道路改良工事の用地の買収費でございます、場所は市道水玉線これは竹原地内でございます。六八八・四五ヘーベ、市道一二号線正木地内であります。



二二二・八四ヘーベ、市道山台線これは山本地内で七八七ヘーベ、市道大戸出野尾線八八四・一二ヘーベ、市道安東宝貝線六八一・一九ヘーベ、市道南鳥居線これは八幡地内で一二五六・四ヘーベ、市道豊房八号線古茂口地内で五七二・一七ヘーベ、市道宮の前桜田線これは小原地内で一七〇六ヘーベ、市道二七九号及び二八一号線正木の川崎地内でございます。七九八・七四ヘーベ、市道小池線これは東長田地内で一一七八・九ヘーベ、これらの用地買収の費用でございまして、四十五年度に債務負担行為として館山市の開発公社のほうに買収方依頼いたしましたものを、今回追加補正をお願いいたしまして土地開発基金のほうに返済するものでございます。

〇二八番（田中祿郎君） 東京航空無線局というのは牧場のところにてできるんだということでございますが、この補助金というのは三百十万ですか、これは市に入ってくることになっておりましてその用地の賃借料ですか、これは地元の地主にすることになっておりますかねですか。これは市を通らないで地主に直接くることになるんですか。これはたいへん問題を起したところですね。貸すか貸さないかで、そうしますと、航空局の設置というのは塔は市で建てるようになるか、どういうものでございますか。ただこの支払いのほうに七万七千円の調査費が出ております。これと関連していると思うんですよ。関連していると思いますが、これは市にくるということになると、私の考えとしますと、市でもって塔を建てるのかというふうなふうに考えられますが、そのところをはっきり説明していただきたいと思っております。

それから、畜舎の件でございますね。これは畜舎でないですね。ただ、寒さをよけるための幕ですか、それと牛の食べてしまったら首をつるといふようなことだろうと、さっきあれがあったんですが、そうしますと、それをなぜ畜舎の新築工事請負費となったんですか。それをひとつまた説明していただきたいんですがね。これでは畜舎を建てるように考えられるんですよ。

それから、三点目の公有財産の購入費というのは了解いたしました。

〇農産課長（石井 謀君） お答え申し上げます。

第一点の東京航空局が豊房育成牧場の一面に約面積的に申し上げますと六三アールでございしますが、その土地は市と部落、四部落の共有地で賃貸借契約が結ばれておるところが、たまたま最終的においてそこ以外にはもう場所がないんだということで地主も了解いたしました、そこに航空局の無線の標識所が設置されるわけでございますが、私もはすでもうその一面を借り受けまして六三アールの草地を造成しておったわけです。

その代替地造成といたしまして、その周辺に私もは三百十万の予算をいたしましてそれを造成しようということでございまして、航空局無線標識所においては標識塔は航空局のほうで設置することに相なるわけでございます。

それからその中の報償費の航空標識所設置現地調査報償費でございしますが、これは地元の代表者の方々延べ七十七人かかっておるわけでございますが、そういうふうないろいろな現地の案内とか、いろいろ話し合いの中でそういう方々、たとえば大工さんが休んでそういう代表者になっておる関係上出てくる場合もあります。



す。そういうことで無報酬じゃまずいということで航空局に申し上げまして、三十万の中に入れてあげましょうということで延べ七十七人分を計上させていただいたわけでございます。

それから、この家畜保護舎の新築工事の名前が実際に予算だけを見ますと、新しく新築するようになるわけでございますが、補助事業の關係はいろんな補助基準というのがあるわけでございます。その補助基準の中でそういうような防寒テントを新しく周囲にやる場合には、家畜保護舎の設置事業補助というよりな形がございまして、その事業名に合わせた名前をここに入れたわけでございます。

〇二八番（田中祿郎君） 大体わかりましたが、そういったと三十万の航空局の塔ですか、整備事業ですか、これは六三アールの代替地の値段こう考えれば間違いないということでございすね。代替地の三十万ですか、代替地はその近所に代替地を求めたんですか。また借り受けたわけですか、六三アールの代替地として三十万ということですが、代替地というのは今造成していらっしゃるんですか。

〇農産課長（石井 謙君） 現在予定しております航空局の牧場のすぐ周辺に、現在まで地主と賃貸契約は結んでございますが、非常に地域的に起伏が多いようなところでございまして、そこを相当事業いたした場合には、六三アールの代替地が造成できるような場所でございますが、ただし、今までのような経費ではできないということで相当額を要求したわけでございます。その近くでございます。

それから、現在そのところを工事しておるかどうかということ

でございますが、これはまだ全然いたしてございません。

〇二八番（田中祿郎君） 了解。

〇一八番（安西益男君） 一五ページ民生費のところで一カ所お伺いしたいわけですが、寝たきり老人の日常用具購入扶助費ということで十三万二千円計上されておるわけでございますが、これをちょっと御説明願いたいと思います。

〇福祉事務所長（斉藤武男君） 寝たきり老人の日常用具の交付金の關係でございまして、これは身体障害者の福祉法によりまして実施しておるものでございます。対象は六十五歳の在宅の寝たきり老人のものでございまして、マットレスとか浴槽、便器こういうようなものでございます。

先ほどちょっと申し上げましたけれども、身体障害者福祉法は誤まりでございまして訂正いたします。

〇一八番（安西益男君） この老人対策につきましては、当市は非常に積極的に取り組んでおるといふことで、その点は非常にけっこうに考えておるわけでございます。

先般、六月の定例議会におきまして、この福祉施設の県南にということ御要望申し上げておいたわけでございますが、この点につきましては、非常に積極的に推進に取り組んでおるといふことで、はっきりわかりますが、先般県に県南にそういう施設をいふことで陳情にいかれたということも聞いておりますし、場合によっては広域圏でつくりたいというような相当強い姿勢でのぞんでおられるということはわかるわけでありますが、その見通し等につきまして、また先日のお県の陳情の状況につきまして御説明いただければと思いますけれども。市長さんよろしくお願いいたし



ます。

○市長（本間 謙君）

先般、この問題は寝たきり老人の救済でございまして、館山市だけではなかなか容易じゃないわけでございまして、広域市町村圏ということを考えたわけでございますけれども、それより県にお願いして県でそういうものをつくってもらいたいということを考えまして。先般県に陳情にいったわけでございしますが、ちょうど前から連絡しておいたんですけれども、知事さんが急用ができて東京に行ったということで、知事さんおられまして副知事さんと社会部長さんにお会いしていろいろ話したんですが、どうも今は船橋方面でなんか市町村が合併して組合みたいでやっておるし、銚子でもやっておるんですが、そんな関係もあって県でなくというよりな意向もあるようですが、むこうでは検討する。こういうことであつたわけですが、その後いろいろ伺ってみますと、老人の脳をおかされたりなんかして、少しもうるくしたというんですか、そういう人の施設は考えられるというようなことを県のほうではいつておるんですが、またひとつ知事さんのいいときに陳情に参りたいと思いますが、とにかく県北方面には相当県ではいろいろ力を入れてやっておるんですが、県南方面にはあまり力が入っておらないじゃないかという考えもございまして、そういう面においてそういう施設とか、水道の県営とかそういうものを強く要望しておるわけでございますが、もしこれが県がやらないということになれば、安房郡市の広域市町村組合によって計画を立ててとにかくやっていこう。

やはり、いくら親子でも二年も三年も寝たきりでおしめを使つて処理するということはなかなか容易でないですね。それではな

かなか不十分ですし、やはり専門的な人を入れてお医者さんをお願いして、お年寄りを、寝たきりの人は気持よく、更正ができる人は更正をしてもらいたいということがきわめて私は重要じゃないかと思ひまして。県でやってくださらないければ広域市町村圏のほうで相談してぜひこれをつくりたい。

しかし、つくるについてはなかなか相当の金がかかるそうですが、運営費については八〇%が国が持つらしいです。あとの二〇%は県とその市、あるいはその市町村組合で持つというんですか、運営費の率は相当かかるでしょうけれども、そのわりあいからいけば八割国が持つということになれば非常にいいわけですが、施設をすること、まず二人に一人ぐらいの看護婦を置かなければならないと思いますが、またある程度の専属の医者ということが必要じゃないかと思いますが、つくることになつてもそれらの点に適当な医者を得られるかどうかということや、看護婦ということですか、そういうものを数多く雇い入れができるかということも考えられることでございますが、しかしながら、やっぱり設置をするということになればあらゆる方法でさしつかえない程度にこれはやれるんじゃないかと思いますが、今のところはそんなようなことでございしますが、よろしく願ひします。

○一八番（安西益男君）

老人対策につきましては、昨今非常に政府におきまして積極的のこの対策に取り組んでおる。今後そのように老人問題というものが大きなウエイトを占めてくるのじゃないかと考えまして、たいへん市長の積極的な態度には敬意を太いに表したいというふうにも考えております。

なお一そう県に対しての積極的な重ねての陳情を展開されまし



て、この老人、寝たきり老人合わせて精薄児の施設等につきましても、より以上のまたやっていただきたい。このように強く要望いたしまして終ります。

〇一五番 (和田一郎君)

一七ページ三目十九節ウリ栽培奨励事業補助金として新しくのっておりますが、ウリというのは一〇アール当たりどのぐらいの収穫といえますか、金額でどのぐらいの収入が得られるのですか。お教え願います。

〇農産課長 (石井 謀君)

まだはっきりとした、ウリ栽培については大体平年作で五千キロ乃至六千キロぐらいは取れると記憶しておりますが、この地域の場合についてのデータはまだ取っておりませんが、この地域の場合に、ただ、私も聞いております範囲は、本年はあまり成績がよくなかったということを。

〇一五番 (和田一郎君)

金額のほうはわかりませんか。

〇農産課長 (石井 謀君)

売り上げの金額でございますか。この金額につきましては生産者が二十一名おりますが、おのおのみな各人各様でございますので、総額についてはまだ算定いたしておりません。

〇一五番 (和田一郎君)

こうして補助金まで出して栽培の増反といますか、あれをはかっていくことだと思えますが、そういうした場合、しっかりした受け入れ業者があるのか。また価格が保証されておるのか。それをちょっとお尋ねいたします。

〇農産課長 (石井 謀君)

ここに、お願いいたしますことは、当初御説明申し上げましたが、昔はウリ栽培をだいぶ行なっておったわけでございます。現在非常にキュウリ等の共同生産によってウリをほとんどつくっておらないというような現況でございます。

そこで、ウリ加工というのが、ほかの地方をみますと、たとえば成田でもって非常にウリづけがその地域の産物になっておる。

また保管が長くなりますので、ウリ栽培というものをねらったわけでございますが、その館野地域の二十名の方々にひとつ試験的にやっていたいて市の産地化をはかろうというようなことでございしますが、市内のある業者にお願いたしまして、大体それを引き受けていただくことになっております。ただ、今後の数量等についてはまだ十分な話はできておりません。大体館山市でもウリづけができるなというこの確認はいたしてございます。

〇一五番 (和田一郎君)

この本年度計上しました補助金というのはですね。本年度の栽培した農家に支払うものであります。それとも来年度また増反するためにこの予算を計上したのか。それをお尋ねいたします。

〇農産課長 (石井 謀君)

このウリ栽培は本年実施した農家に奨励補助金といたしたいわけでございますが、この内容といたしましてはビニールとかあるいは黒マルチ、種子代とかいろいろあるわけでございますが、総体的に三十四万程度かかっておるわけでございます。この栽培するについてそのような関係からいたしまして、御承認がいただければ三〇%程度を助成してやりたい。こういうような考え方でございます。

〇一四番 (伊賀多朗君)

特別養護老人施設についてお伺いしたいんですが、市長がいないので助役さんにお伺いしてよろしゅうございますか。

特別養護老人施設、県の話と広域行政圏の話がたまして、市の話が出てなかったんですが、県の場合、広域行政圏の場合おおよ



その話かたまっておりましょいか。対象地域と対象人数、大体の見当でけっこうでございます。おわかりでしたらお伺いいたします。先ほど安西議員が質問なさったことに関連して。

○助役（畠山 伝君） お答え申し上げます。

私も広域市町村圏事務組合のその会議に出席したわけでございますが、とにかくこれは県南にもひとつそういう施設をぜひほしいというように、とにかくこれは県でやってもらおうじゃないかというように、先般県へ代表と知事に陳情に参ったわけでございますが、そのおりに、先ほど市長申しましたように知事にはあわないで副知事、部長によくお願いはしてきたようでございます。いずれまた知事にもお会いしていただきたい。こういうことでございます。

この前は、広域市町村圏の会議では県でもできなかった場合には、これから広域市町村圏としても考えようじゃないかというように、あろうと思うわけでございます。これにつきましては、いろいろ運営費につきましては国で八〇%いろいろあるわけでございますが、私、先般袖ヶ浦センター、あそこはいろいろたくさん科目と申しますか。あそこはお医者さんが三人おるわけでございます。整形外科等につきましては外来も得ておるようでございます。そういうように、相当の人数がないとお医者をおそこに常駐していただくのがたいへんなこともあるわけでございます。

そこで、安房郡市でどの程度の該当人員があったかということは今私、福祉事務所長調査をわずらわしいと思いますが、というようにございまして、どうしても県でできない場合は、

広域市町村圏でもというように考えを持つわけでございます。私からは以上でございます。

○福祉事務所長（斉藤武男君） せ、かくの施設でございますので効率的な運営をはかりたいということで、一応百ベットを予定していたわけでございます。

○一四番（伊賀多朗君） これは百ベットということですが、県でやっても百ベット、広域行政圏でやっても大体百ベットというようにございしますか。

先ほど、ちょっと質問申し上げましたんですが、県でやった場合と広域行政圏でやった場合、対象地域は大体どのへんまでというのと、その該当する人数は大体どのぐらいということがわかりですか。百人収容したら、全体として百人ということもないでしょうけれども、何百人もいるのかどうか。それと地域の問題を。

○福祉事務所長（斉藤武男君） お答え申し上げます。

広域関係でございますので、一応考えておりますのは安房郡内ということの考え方でございます。今回陳情にあたりましての実態調査をしたわけでございますが、ちょっと手もとに資料がございませんけれども、百以上の寝たきりのお年寄りの方がいらっしゃるということと事実でございます。

ただ、こういうような施設でございますが、すべての方がこの施設に入りたいというように、ものでもございませんし、その中にはご自分のお家の中へいたいという希望の方もいらっしゃるわけでございますから、いずれにいたしましてもこの安房郡のなかにそういうような施設がございませんものですから、これらを対象に



してきたいというようなことでございます。

○一四番（伊賀多朗君） 安房郡という話が出ましたんですが、広域行政圏ですと安房郡という対象になると思うんですが、今まで千葉にも、君津にも、銚子にもそれから船橋にもできておるんですけども、そういうのはこれは市町村とか、広域行政圏でつくっているわけですね。県営ではなくて、今度の場合もさっき市長さんちよっとお話がありましたけれども、県営ということは望み薄でやっぱり広域行政圏でということになるわけですか。安房郡対象であって広域行政圏で造っても郡外の人も収容するということも考えられるんですか。そのへんのところを。

○福祉事務所長（斉藤武男君） 設置の義務は県にもございますし、地方自治体にもあるわけでございますが、ただ県の場合に先ほど市長のほうからお話がございますように、もし県がやらなかった場合に広域行政でやりたいというお考えのようでございますがただ、県の場合に設置義務があるわけでございますが、今までの例がそういうことで単独の市町村に県費全額で施設をしているところはないうんだというような経過があるわけでございます。

それからまた一面、広域行政でやるかあるいは単独でやるかというところでございますが、現在の館山の老人ホームに七十名定員であるわけでございますけれども、こちらの施設には館山市内の方が三十四人いらっしゃるわけでございます。残りの方が安房郡からいらっしゃってあるわけでございます。こういう施設でございますので、ひとり館山市の者だけを対象にというようなわけに参らないと思うわけでございますので、一応そういうことで館山市はもちろん安房郡関係も施設ができれば収容したいというよう

なことでございます。

○一四番（伊賀多朗君） せっかくつくるりへばな施設でございますから、りっぱな施設をしてもらいたいと思います。訓練士もいるでしょうし、養護の方もいることでしょうし、医師もお手伝いしなければならぬことだろうし、たいへんなことでございますが、これは百人にしておいて、人数が多くなればまた二百人にするというお考えかもしれませんが、人数のこともお話がなかったように申し上げたんですけれども、ぜひいい施設をつくっていただいで安心してご老人の方がお休みできるようにしていただきたい。要望いたしましたして終ります。

○二二番（田村源治郎君） 一九ページの公立学校施設災害の復旧費、これは大体この予算を組んだのに何カ月もたっていない。その設計から二千六百八十七万円、そうしてその不用額は大体二割中の内容性はどうかわったか。きのうの説明では安くなった。中の内容性のあれは見積りはこんなに違っておったのか。あるいは中を簡単にしたためにこんなになったのか。はじめから全然違っておるのではないか。それを一つお伺いしたい。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） お答え申し上げます。

当初予定しました金額より大幅に下回りました施行でございますが、当初における予算の見方のあまさを申しわけなく思います。内容につきましては、当初予定しましたそれと何らかわりございません。市で当初設計、仕様をつくりました。それにてらしまして市の建築課において細部検収いたしております。

○二二番（田村源治郎君） 市においてあまかったというけれども請け負って二万も市があまいうような計算を出すならば、これはし



ろうとじゃないですか。中の内容性が違ったらこのとおりではないか。内容性を正確に出してきちんとやるなら四百三十万もブレハブ違いはないだろう。高層建築とかむずかしい建築じゃなかったら、業者に聞いてもおそらく五分はない。違うかもしれないせんが、ブレハブ住宅が二割のあまさ、見積りということはあまりに感心せぬことである。あまいで済むわけではおそろくないだろうと思う。ブレハブ住宅で建てる業者に聞いたって大体そんなに二割も違うわけない。市の見積りがあまかゝたで済むわけはおそろくないだろうと思う。中の内容性を簡単にしたか、材料を落したか、何かがあるから四百三十万落としたじゃないか。それに確実な最初から見積りが違うんじゃないか。見積りを出してある。どういうものか、内容説明をひとつお願いします。

○建築課長（飯田治男君） 当初の見積りを申し上げます。

ブレハブ校舎につきましては十二教室で土間、電気工事、障害物の取り除き、消火栓等のつけかえを入れます、私どものほうで見積りしたのは千四百四十万でございます。

それから、そのほかに校舎の管絃工事といまして、焼け残りましたほうの建物の修繕費が百八十七万でございます、その残がブレハブ校舎の渡り廊下並びに手洗い、教室の床の二重張り、それから量水器のつけかえ、それからブレハブの中に有線放送の配線工事、放送施設の工事そういったものを実施いたしました、総額一千七百四十七万ということで見積りました。

ブレハブ校舎を入札する際に業者の指名を十一社指名いたしました。競争入札を行ないましたところ、私どものほうで図面、仕様書をつくりまして、各社、各メーカーの自分自分のつくってお

ります製品によつて見積らせただけでございます。そうしますと一応最高が一千三百五十万、最低が落札いたしました岩村ハウスで九百九十万、これは各社の製品によつて差があると思いますが、私も検査に参りまして、岩村ハウスの会社は、県内でも木更津でも仕事をいたしまして相当名の知れている会社でございますので、私も細部にわたつて仕様書、設計書それから図面等により検査いたしました、こちらの設計、仕様書に全部かかっております。

当初の見積りでございますが、木更津に私どものほうの担当者が視察に参りまして、木更津の場合だと一教室約百万ということとで実施いたしましたのでございます。ただ、館山市の場合は、木更津の場合ですと床がベニヤで、それから入口が片側だけしかないというものでしたので、館山市の場合は床をヒノキのフローリングにかえまして、出入り口を反対側に一カ所設け、それから西側に季節風が当たるといふことで下見を二重にさせて、そのときに私どもで見積りました額が一教室百五万ということで積算してございます。以上、最初の設計について申し上げます。

○二二番（田村源治郎君） 最初に見積ったのが百五万、あとに見積ったのが千七百四十七万、そうするとこれは概略的の二千百六十八万七千円ということ、ただ概略で見積ってしまつて、あとは正確的な千七百四十八万で土木課が見積った。請負したら千七百三十八万七千円、これなら千七百四十八万当然出すべきものが概略見積って、あとでまた手直ししたらこれだけの金額だということはいまいというか、はじめからもっと厳格性に千七百四十八万に見積るべきものが百五万も調整されてしまつてゐる。それ



でこういうふうな金額を出してある。あとで計算で千四百四十万百八十七万、テレビの配線を入れて千七百四十七万、なぜ千七百四十七万の予算を出さなかったか。市は軽はずみに幾らでもいいから金額をばかんと聞いているものか。

議員は、このためにブレハブに二千百六十八万七千円に対しては慎重審議して、この金額はとらえて厳格にしたものであって、そうして土木課で再度やったら千七百四十七万だ。どうも慎重性がなくておかしいものである。これぐらいの予算は市がどうして受け取れませんか。あいまいで済むですか。これはまして簡単なブレハブ住宅に対して二割も余分のものをくっつけてしまつて、再度慎重にしたら千七百四十七万だ。なぜこういう予算を出すんだ。これから予算を出すなら市の出すものは慎重性がない。その点どう考えますか。

○建築課長（飯田治男君） お話しの意味がわからないんですけれども、当初予算を組んだのは総額千七百四十七万円で予算化しているわけです。それで、ほかの施設につきましては、ほぼ予算どおりの執行を行なつてあるわけです。

ブレハブの校舎の入札について結局私どものほうで設計いたしましたのは、これば木更津等の先進地の設計を参考にいたしました。概略の見積りをして予算化したわけでございます。それで、実際に今度私どものほうで設計しました額で入札した結果が最高が千三百五十万、最低九百九十九万ということで設計額の一千四百四十万に対して、九百九十九万で落札しているわけで、そこで四百三十万という請負残が出たわけでございます。

○二二番（田村源治郎君） 了解。（笑聲）

○六番（栗原一雄君） 一七ページ三目農業振興費補助金ショウガ栽培の事業費、四十六年度の当初予算で二十六万二千五百円、本年三月に十四万減額そうしてまた四月に十七万計上、そして今回十万二千円減額こういったように予算の立て方が非常に粗雑ではないか。このように考えますが、この原因について御説明いたしたい。

○農産課長（石井 謀君） 確かに御指摘のとおりでございますが実は、ショウガ栽培につきましては生産調整と合わせまして、豊房地区の生産組合四百組合を結成しまして四十六年度において二十五町歩を計画して、その中で今まで房州でつくっておりましてショウガ、中太ショウガと申しますか、それを今まで出して参つたわけです。どうも今までのショウガは業者に買いたたきをされるようなことが多いということで、たまたまその地域で九州のオオミショウガに切りかえると非常に有利性があるということですから、そういうような計画をしたわけでございます。

そこで、四十六年度で計画いたしましたものが、生産組合といろいろひざをまじえて話し合った結果、どうしても当時千俵これだけはどうしても確保したいということで進んでおつたわけでございますが、いよいよ入荷の際になりますと、なにしろ新しいショウガを導入するということでございましたが、大体四百俵程度の種ショウガを購入したわけでございます。予算化いたしますときには、当初千俵で大体七ヘクタール予定しまして、その購入費が約一千万程度見込んだわけでございますが、その一千万に対して種代の購入費に対して市が二・五%の利子補給補助を出そうという計画でございました。それが四百俵程度で約半額の五百二十



万程度で終ったわけでございまして、そういうような減額に相な  
ったわけでございます。

なお、本年度の十万二千円の減額でございしますが、これはやは  
り引き続き四十七年度も九州のオオミシヨウガを購入すべく生産  
組合で計画中であるわけでございますが、たまたま前年度購入い  
たしました九州のオオミシヨウガの種が保管に成功いたしました  
それを購入しなくても何とか済むというような段階になったわけ  
でございます。そういうようなことで、九州から購入するオオミ  
シヨウガは買わなくても済むことによつて二・五%の利子補給が  
必要なくなつた。こういうことで今回十万二千円の更正をお願い  
したわけでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑  
なしと認めます。

### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託を省略することに御異議ありませんか。――  
御異議なしと認めます。よつて決しました。

### 計 論

○議長（吉田勇治郎君） これより討論を行ないます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） この補正予算全体に対しては異議はな  
いわけですが、一点、五十五号議案の中で社会教育指導員の報酬  
を変更する条例に對しましては、本会議のなかでこれは新しく社  
会教育指導員が委嘱されるというその内容について、国や県の財

政的な補助があつて一応ひもつきになるんではないかということ  
で反対いたしました。

補正予算の中には社会教育総務費として指導員の報酬が四十三  
万二千円計上されております。この中には、歳入の面で県の支出  
金の中に二十八万八千円という補助が出ておりますが、当然この  
報酬の変更は反対いたしておりますので、この補正予算はこの面  
では賛成することはできません。ほかの補正予算については賛成  
いたしますが、この社会教育指導員の報酬に反対しましたので、  
この補正予算案には反対いたします。以上です。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。――討論なし  
と認めます。

### 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案に対する採決は起立により行ないます。

おはかりいたします。本案を原案どおり可決するに賛成の諸君  
の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よつて本案は原案どおり可決  
されました。

### 議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第九、議案第六十三号乃至議案第六  
十五号特別会計補正予算を一括して議題といたします。

議案第六十三号 昭和四十七年度館山市と畜場特別会計補正予



算（第一号）

議案第六十四号 昭和四十七年度館山市休養施設特別会計補正

予算（第一号）

議案第六十五号 昭和四十七年度館山市ユースホステル特別会

計補正予算（第一号）

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑ございませんか。ト 御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略直ちに採決することに御異議ございませんか。―― 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ございませんか。―― 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

延 会 午後四時十分延会

○議長（吉田勇治郎君） 本日の会議はこれにて延会いたしたいと思ひます。これに御異議ございませんか。―― 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

次会は、明十三日午前十時開会といたします。その議事は昭和四十六年度一般会計並びに特別会計決算の審議といたします。どうもごくろうさまでした。

○ 本日の会議に付した事件  
一、議案第五十五号乃至議案第六十五号



